

2021/01/21 時点

東郷町地域公共交通計画（案）

令和 3年 3月

東郷町地域公共交通会議

目 次

I 東郷町の現状と社会情勢の整理

1 東郷町の人口等.....	1
2 上位・関連計画の整理.....	4
3 公共交通のサービス状況.....	8
4 公共交通を取り巻く社会情勢.....	15

II 各種ニーズ調査・利用実態の把握・分析

1 各種調査の実施概要.....	18
2 町民アンケートの結果.....	19
3 乗降調査の結果.....	24
4 利用者アンケートの結果.....	29
5 集客施設調査の結果.....	32

III 東郷町地域公共交通網形成計画の評価

1 個別事業の進捗状況の確認.....	34
2 目標とする成果指標の達成状況の確認.....	37

IV 東郷町における地域公共交通の課題..... 41

V 基本的な方針と目標

1 東郷町の交通将来像.....	47
2 地域公共交通の基本方針.....	48
3 計画の目標.....	52

VI 計画の区域と期間

1 計画の区域.....	55
2 計画の期間.....	55

VII 目標を達成するために行う事業と実施主体

1 アクションプログラム.....	56
2 公共交通の機能分類.....	57
3 公共交通の再編.....	59
4 公共交通の利用促進策.....	60

VIII 計画目標の達成状況の評価

1 東郷町地域公共交通計画の評価の進め方.....	64
2 個別事業及び路線単位の評価・検証.....	66

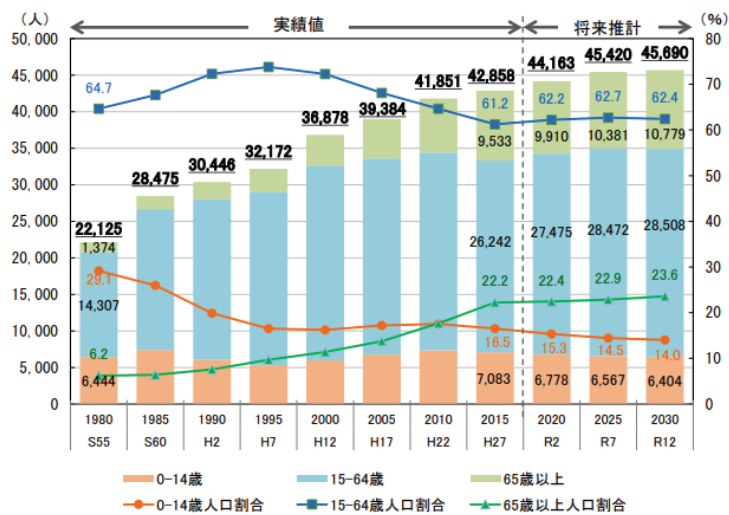
I 東郷町の現状と社会情勢の整理

1 東郷町の人口等

(1) 人口の状況

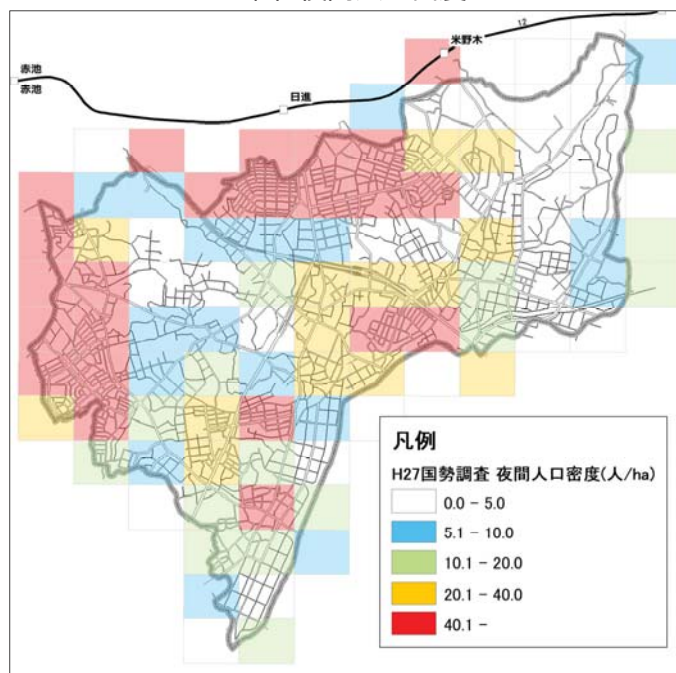
- 東郷町の人口は 2030 年まで増加すると推計されています。世代別では、65 歳以上は増加傾向にあり、今後も高齢化が進行します。
- 夜間人口密度は、町の北部（和合ヶ丘・白鳥・御岳・押草団地）及び西部（白土・西白土・部田山・清水）で高くなっています。
- 高齢化の進展、及び東郷セントラル地区による新規居住者の流入という人口推移を背景にした公共交通ネットワークを充実させたまちづくりが期待されています。

図 将来の人口の見通し



(資料：第6次東郷町総合計画(案))

図 夜間人口密度



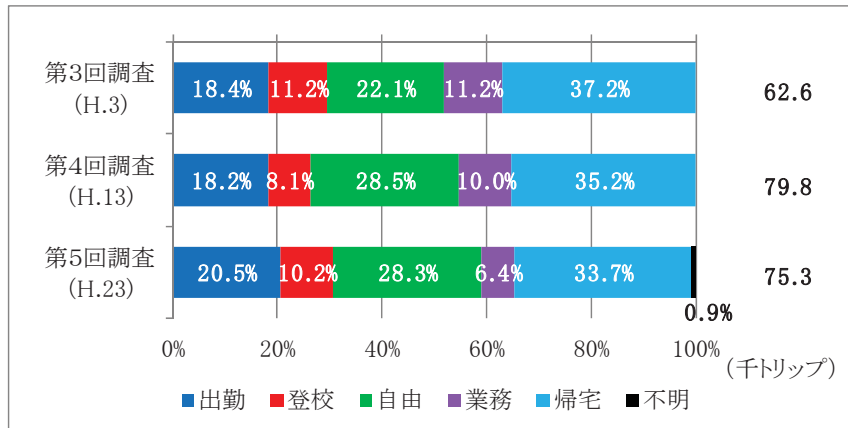
(資料：平成27年国勢調査)

(2) 人々の動きの現状

1) 全交通手段-目的別トリップ*構成の推移

- 東郷町全体の全交通手段-目的別のトリップ構成の推移は、平成13年（第4回調査）と平成23年（第5回調査）を比較すると、出勤目的及び登校目的がそれぞれ約2ポイント増加しています。

図 全交通手段-目的別トリップ構成の推移（東郷町全体）



(資料：中京都市圏パーソントリップ調査)

※トリップ：ある目的で起点から終点へ移動する際の移動を表す概念であり、その移動を表す単位のこと。

2) 全目的-交通手段別トリップ構成の推移

- 小ゾーン別の全交通手段-目的別のトリップ構成の推移は、日進駅に近接する小ゾーン【12812】は鉄道が1.8ポイント、徒歩が1.5ポイント増加しています。一方、自動車が2.9ポイント減少しています。

図 全目的-交通手段別トリップ構成の推移（小ゾーン別）

図 中部の交通手段別トリップ構成

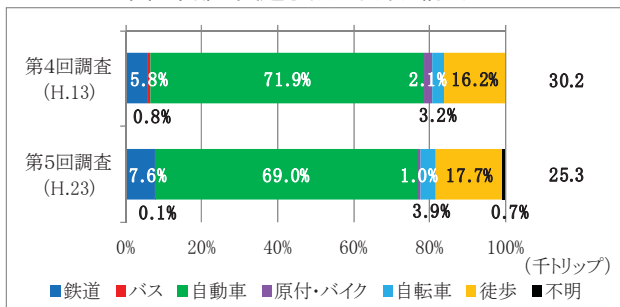


図 西部の交通手段別トリップ構成

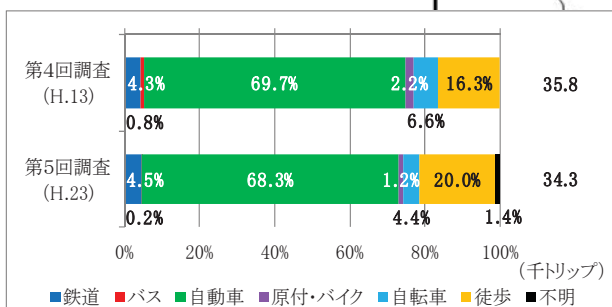
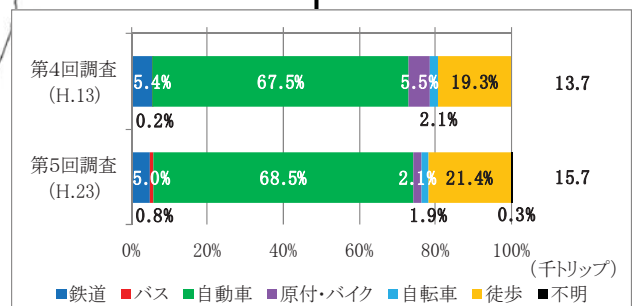


図 東部の交通手段別トリップ構成



(資料：中京都市圏パーソントリップ調査)

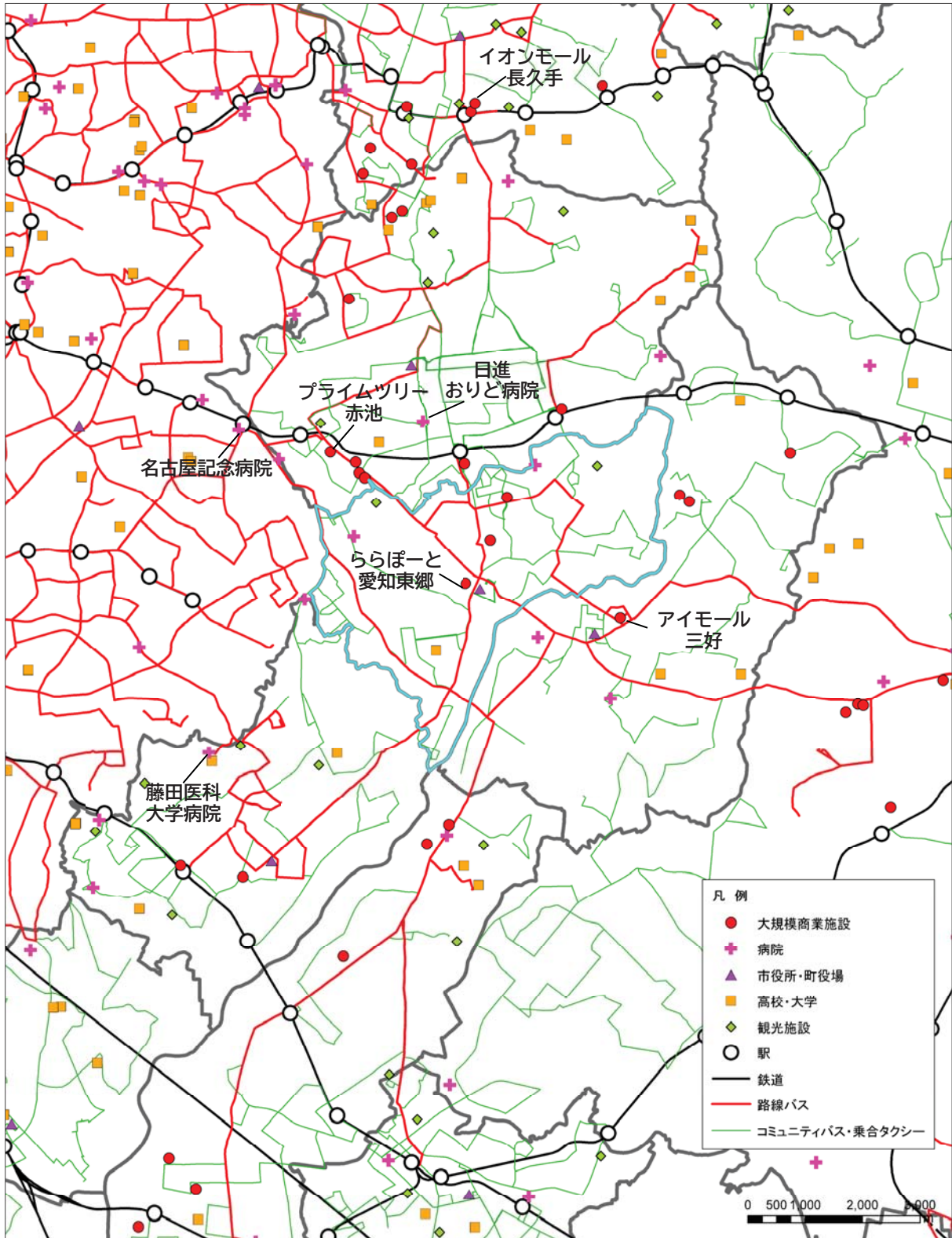
※地図上の数字は中京都市圏パーソントリップ調査*における小ゾーン番号である。東郷町は3つの小ゾーンで構成されており、西部は小ゾーン番号【12811】、中部は【12812】、東部は【12813】で表記される。

※パーソントリップ調査：一定の調査対象地域内における人の動きを調べる調査のこと。

(3) 周辺地域のまちづくり

- 東郷町及びその周辺地域には、大学や大学病院等の高次都市機能（行政区を跨ぐ広域的なサービス圏域を有する施設）が集積しており、県道瀬戸大府東海線、県道名古屋岡崎線等の幹線道路沿道には商業施設が立地しています。
- 東郷町やその周辺地域では、東郷セントラル地区など複数の大規模商業施設が相次いで開業しています。

図 周辺地域の医療・商業施設立地状況



2 上位・関連計画の整理

(1) 第6次東郷町総合計画(策定中) (計画期間 2021年度～2030年度)

- 「第6次東郷町総合計画」では、以下の将来都市像及び基本目標を掲げています。

<将来都市像>

人・まち・みどり ずっと暮らしたい とうごう

<基本目標>

基本目標	基本となる施策
1 誰もが元気に暮らせるまち 【健康・医療・福祉】	1 健康づくりを推進する 2 地域福祉を充実させる 3 障がいのある方がいきいきと暮らせる 4 高齢者がいきいきと暮らせる 5 運動・スポーツを推進する
2 子どもがのびのび育つまち 【子育て・教育・文化】	1 子育てしやすい環境をつくる 2 健やかな子どもを育てる 3 生涯を通じた学びを推進する 4 地域文化を大切にする 5 多文化の人々が共生できる社会をつくる
3 安全・安心で、自然と共生するまち	1 犯罪や交通事故等の少ない安全・安心なまちをつくる 2 災害に強いまちをつくる 3 緑豊かなまちを守る 4 環境にやさしいまちをつくる 5 美しいまちをつくる
4 快適に暮らせるまち 【交通環境・住環境・生活基盤】	1 公共交通を利用しやすくする 2 安心して通行できる道路を整備する 3 魅力ある市街地を整備する 4 良好な住環境をつくる
5 産業と交流が盛んなまち 【産業・雇用・交流】	1 農業を活性化する 2 商工業を活性化する 3 働く場を充実する 4 まちの魅力の発信と交流人口・定住を増やす
6 みんなでつくるまち 【参画・協働】	1 協働のまちづくりを進める 2 自分らしく輝ける社会づくりを進める 3 地域交流を促進する 4 将来を見据えた行財政運営を進める 5 多様な組織の連携を強化する

※上記内容はパブリックコメント段階の案であり、今後変更が生じる可能性があります。

(2) 東郷町都市計画マスタープラン(策定中) (目標年次 2030 年度)

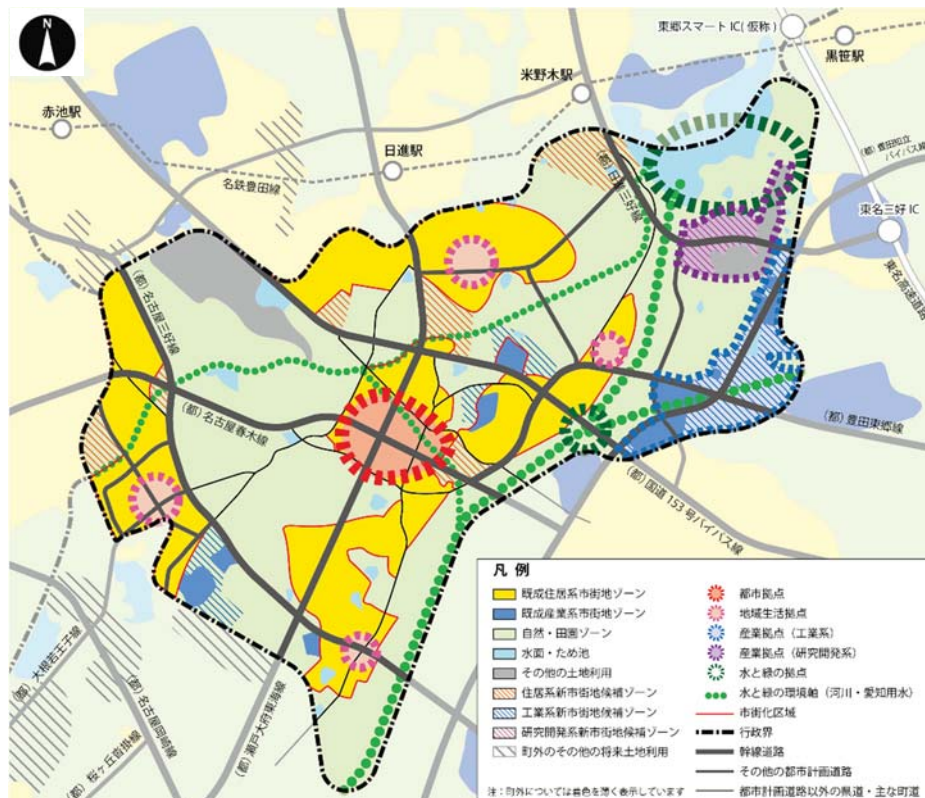
<将来都市像>

人・まち・みどり ずっと暮らしたい とうごう

<都市づくりの目標>

都市づくりの課題	都市づくりの方向性
○持続可能なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●東郷セントラル地区を中心とした都市拠点の形成により、交流人口の増加を図る ●産業拠点の形成により、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進する
○日常生活の利便性確保（コンパクトな都市構造への転換）	<ul style="list-style-type: none"> ●都市拠点や地域生活拠点を中心に、コンパクトな都市構造の形成を図る ●公共交通や道路ネットワークが充実した、過度に自動車に依存しない暮らしやすいまちづくりを推進する
○良好な居住環境の維持・さらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> ●多様で良好な居住環境の維持・形成を図る ●若者・子育て世代・高齢者等、多様な人や多世代が交流するまちづくりを推進する ●自然・田園環境の保全・活用等環境に優しいまちづくりを推進する
○安全・安心なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●災害に強いまちづくりに取り組み、東郷町に住みたい・住み続けたいと思えるような安全なまちづくりを推進する ●バリアフリー化や交通安全対策、防犯対策により、安心して暮らせるまちづくりを推進する

図 将来都市構造図



(資料：東郷町都市計画マスタープラン検討案)

(3) 東郷町立地適正化計画（目標年次 2042 年度）

＜計画の目標＞

魅力ある中心核の形成とコンパクト+ネットワークによる 人とまち みんな元気な 環境都市づくり

＜基本方針＞

1. 本町の魅力拠点の形成

都市機能の集積・強化を図り、本町のみならず周辺地域にもアピールし、若い世代の定住や交流を促す本町の魅力拠点の形成を図る。

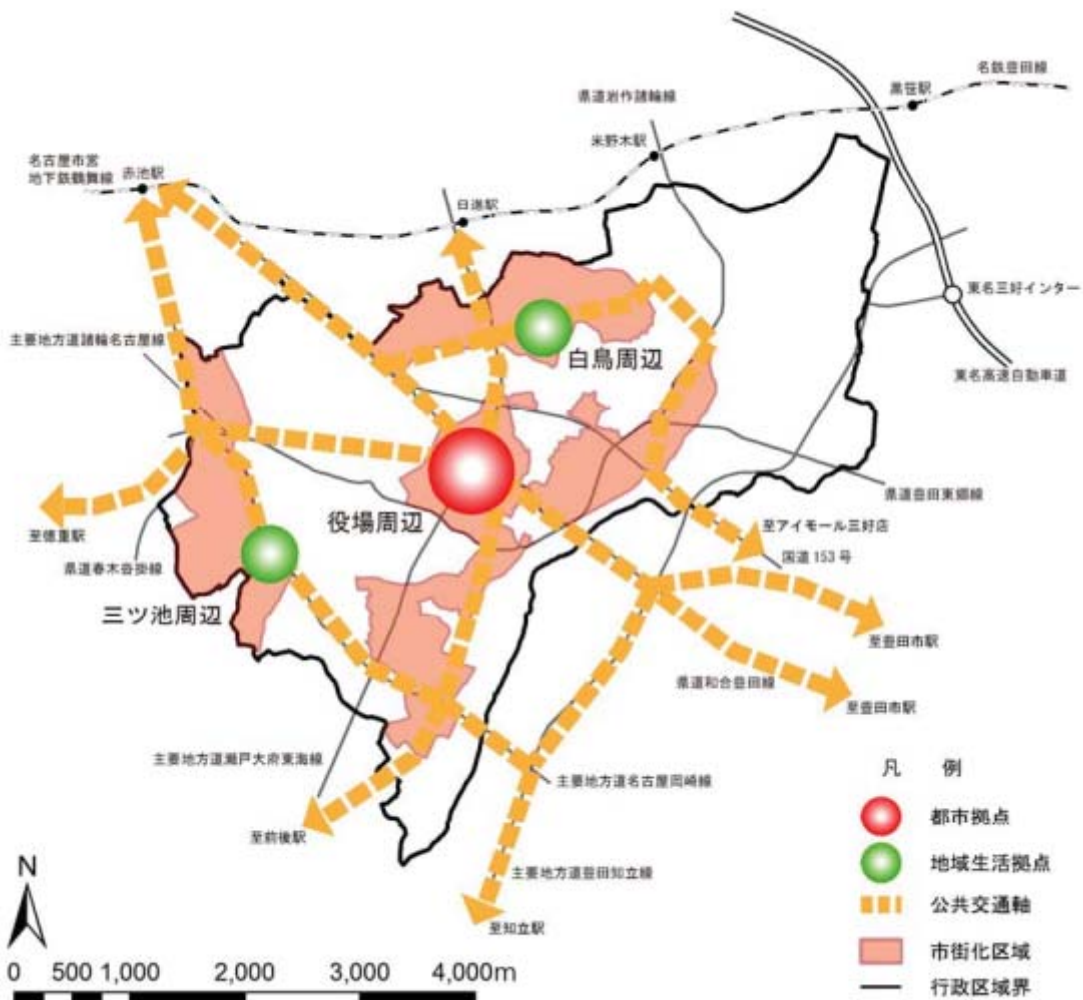
2. 高齢者も安心して暮らせる生活利便性の確保

都市機能の集積を図る中心拠点と地区の拠点との連携を図り、相互の都市機能の補完による利便性の高いまちとするため、セントラル開発によるバスターミナルの整備を契機に、公共交通ネットワークの再編を進める。

3. 環境都市の構築

都市機能の集積を図り、生活利便性の高い拠点周辺に居住を誘導することで、高齢者をはじめ、将来を担う子育て世代も歩いて暮らせるまちの実現を目指し、徒歩圏に都市機能と公共交通を有するまちづくりを進めることで、環境都市の構築の一翼を目指す。

図 目指すべき都市の骨格構造



(資料：東郷町立地適正化計画)

(4) 東郷セントラル地区低炭素まちづくり計画（平成 26 年 3 月策定）

<将来ビジョン>

東郷セントラル地区からはじまるエコまちづくり ～集約拠点の形成による環境都市の実現～

<基本方針>

- 1 東郷セントラル地区から町全体に波及するエコまちづくりの実践
- 2 環境にやさしい交通体系の整備
- 3 エネルギー消費量の削減
- 4 市街地整備における環境への配慮

- 東郷セントラル地区を整備した場合、施設の集約化による町の活性化、市街化の拡散阻止、集約拠点並びにサブ拠点の連携による効率的な都市運営及び集約拠点のバスターミナル整備による公共交通の連携並びに利便性向上及び自家用車が無くても移動しやすいまちの実現が期待できるとしている。
- 集約拠点の形成による環境都市の実現を目指し、公共交通関連施策として交通結節点となるバスターミナルの整備、ITを活用したバス利用促進のためのシステム構築、都市間高速バスの運行等が挙げられている。

図 現在の拡散型都市構造を放置した場合と東郷セントラル地区を整備し、集約型都市構造を実現した場合の比較

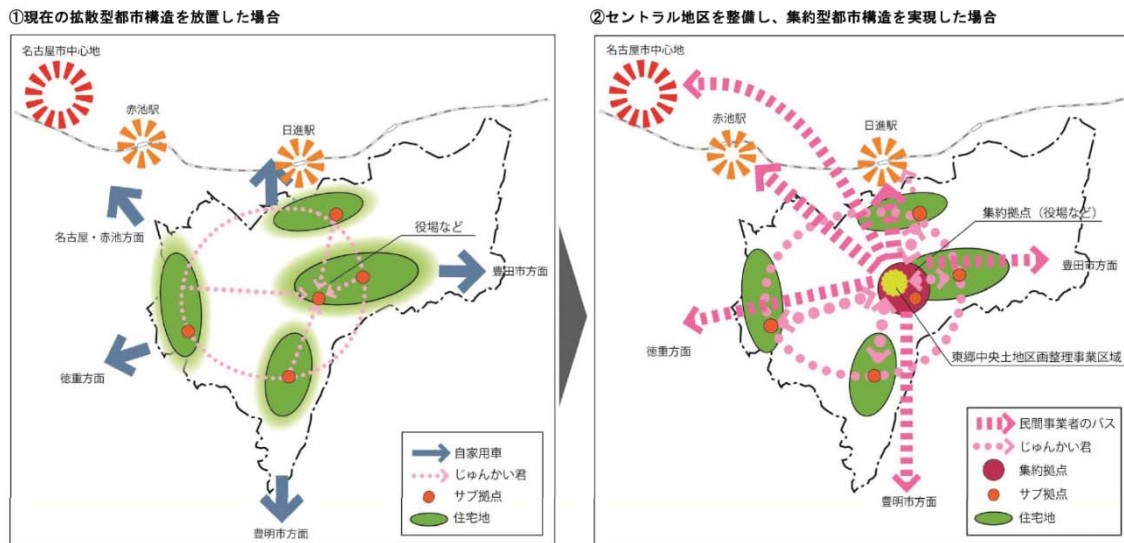


図 将来のイメージ



▼バスターミナル整備のイメージ



▼商業・利便施設のイメージ



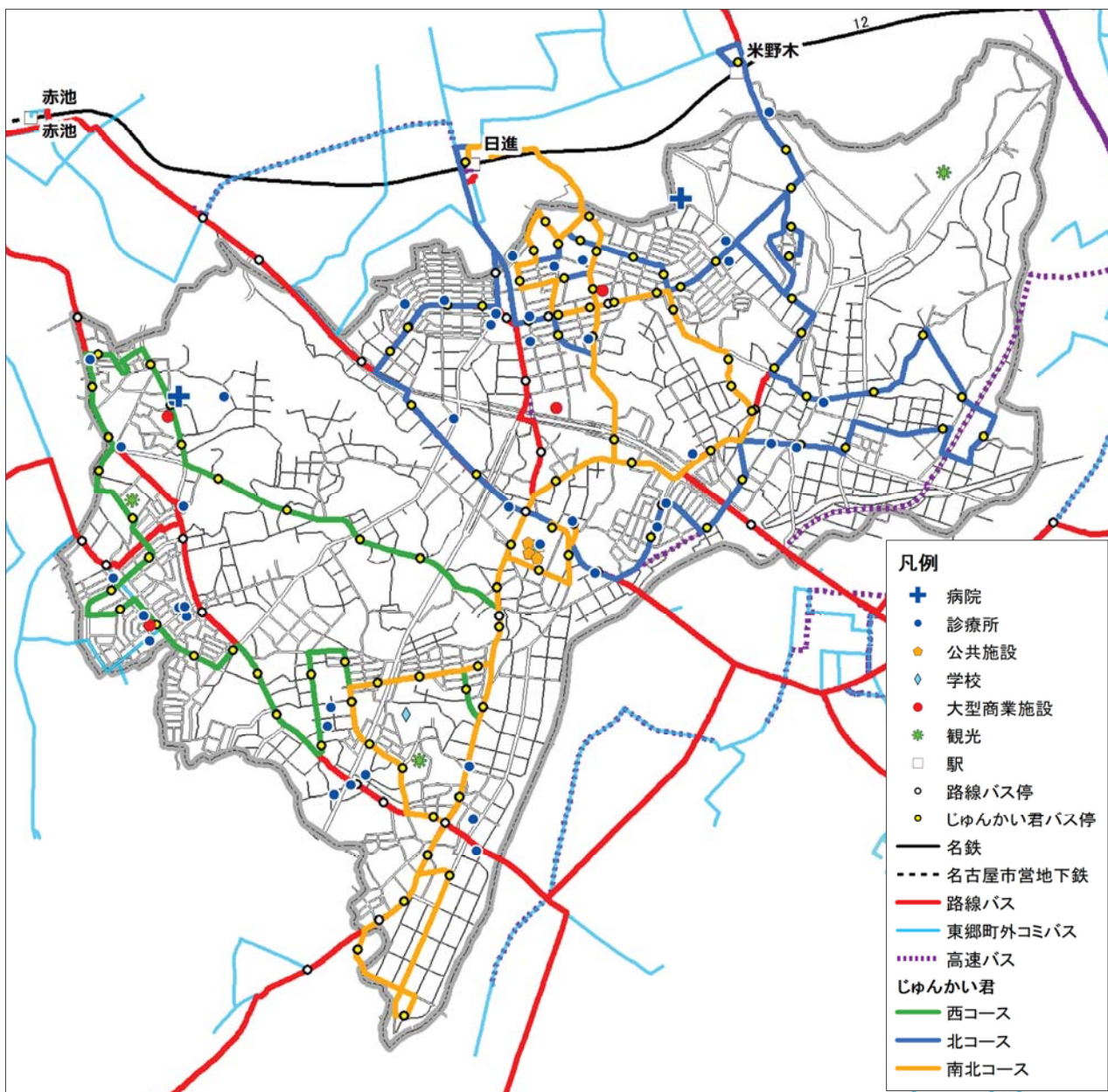
(資料：東郷セントラル地区低炭素まちづくり計画、セントラル地区町民説明会資料)

3 公共交通のサービス状況

(1) 東郷町の公共交通の現状

- 町内に鉄道駅を有していませんが、町外北側に名鉄豊田線及び名古屋市営地下鉄鶴舞線、町外西側に名古屋市営地下鉄桜通線が運行しています。
- 名鉄バス及びじゅんかい君は、町内と赤池駅、日進駅、米野木駅、徳重駅等を結び、鉄道駅へのアクセス機能を果たしています。
- 星ヶ丘豊田線及び祐福寺線を始めとする名鉄バス路線は運行本数が多く、町内基幹路線として機能しています。
- じゅんかい君は町内全域を巡回しており、町内の基幹路線として機能している名鉄バス路線を補完しています。
- ららぽーと愛知東郷バス停を経由する町内と東京を結ぶ高速バスが運行しています。

図 東郷町の公共交通網及び施設立地



(2) サービス水準の整理

①名鉄バス

路線名【系統番号】	運行本数		運行所要時間	運行時間帯		運賃
	往路	復路		始発	終発	
東西線【15】 イオン三好アイモール前 - 諸輪 - 御岳 - 赤池駅	7	6	32分	7:00 イオン三好アイモール前発	20:45 赤池駅発	距離制
星ヶ丘豊田線（新屋経由）【51】 豊田市 - 新屋 - イオン三好アイモール前 - 三好 - 和合 - 赤池駅	29	27	47分	6:06 豊田市発	22:35 赤池駅発	
星ヶ丘豊田線【52】 三好 - 和合 - 赤池駅	5	0	20分	6:00 三好発	22:35 三好発	
星ヶ丘豊田線（衣ヶ原経由）【53】 豊田市 - 衣ヶ原 - 三好 - 和合 - 赤池駅	29	30	46分	6:22 豊田市発	22:20 赤池駅発	
祐福寺線（東白土・祐福寺経由）【45】 赤池駅 - 東白土 - 祐福寺 - 前後駅	4	4	45分	6:45 赤池駅発	18:24 前後駅発	
祐福寺線（東白土経由）【46】 赤池駅 - 東白土 - 祐福寺	19	24	17分	5:55 祐福寺発	22:43 赤池駅発	
祐福寺線（春木白土経由）【47】 赤池駅 - 春木白土 - 祐福寺	7	7	20分	7:10 祐福寺発	21:45 赤池駅発	
愛教大線【23】 日進駅 - 和合 - 祐福寺 - 福田 - 知立駅	10	10	47分	6:15 知立駅発	19:50 日進駅発	
豊明団地線【35】 赤池駅 - 名鉄白土 - 地下鉄徳重 - 藤田医科大学病院 - 前後駅	11	11	1時間 4分	6:32 前後駅発	21:25 赤池駅発	

資料：名鉄バスWebサイト（令和2年11月現在）

②東郷町巡回バス「じゅんかい君」

路線名	運行本数	運行所要時間	運行時間帯		運賃
			始発	終発	
北コース 左回り	9	1時間5分	7:05	18:35	100円
北コース 右回り	9	1時間3分	7:05	18:10	
西コース 左回り	6	45分	7:05	17:45	
西コース 右回り	6	41分	8:00	18:40	
南北コース 左回り	5	1時間2分	7:15	18:20	
南北コース 右回り	4	59分	8:35	17:05	

資料：じゅんかい君バスマップ(未来プロジェクト課)（令和2年11月現在）

③高速バス

路線名	運行日	発	着	運賃
ドリームなごや6号 (岐阜⇒東京)	毎日	23:54 ららぽーと愛知東郷	6:23 新木場駅	距離制
ドリームなごや1号 (東京⇒岐阜)	毎日	22:10 新木場駅	4:50 ららぽーと愛知東郷	

※令和2年11月6日現在、「ドリームなごや6号・1号」は、新型コロナウイルスの影響により運休中

資料：JR東海バス（令和2年11月現在）

④タクシー（町内営業事業者：瀬戸自動車運送・愛知つばめ交通）

距離制運賃	1.031kmまで	450円
	231mまでごとに	80円
時間制運賃	30分	80円
	加算運賃(15分ごとに)	200円
待料金	1分25秒ごとに	2割増
迎車回送料金	1両ごとに	3,260円
深夜早朝割増	22時から翌朝5時まで	1,630円
各種割引	遠距離、障がい者、高齢者、幼児・児童	1割引

※10km/h以下での運行には、時間距離併用運賃を適用

資料：愛知県タクシー協会Webサイト（令和2年11月現在）

⑤福祉タクシー

※高齢者タクシー料金助成事業、障がい者タクシー料金助成事業で交付される「タクシー料金助成券」が利用できる事業者

東郷町内の事業所名	高齢者 対応	障がい者 対応	介護タクシー対応
いわた福祉タクシー	○	○	車いす 可
有限会社シキナサービス	○	○	寝台 可・車いす 可

その他、名古屋市 25、日進市 4、みよし市 4、豊明市 4、瀬戸市 2、豊田市 1、一宮市 1 の合計 43 の事業所で利用可能

資料：東郷町Webサイト（令和3年1月現在）

(3) 公共交通の利用圏域

- 町の北部（和合ヶ丘・白鳥・御岳・押草団地）及び西部（白土・西白土・部田山・清水）は、夜間人口密度及び高齢人口密度が高く、高齢化が進む市街地を有しています。
- 夜間人口密度又は高齢人口密度の高い地域の多くは、公共交通利用圏域に含まれており、鉄道駅から半径1km、バス停から半径300mの人口カバー率は、夜間人口が86.4%、高齢者人口が86.8%です。

図 公共交通サービス圏域と夜間人口密度

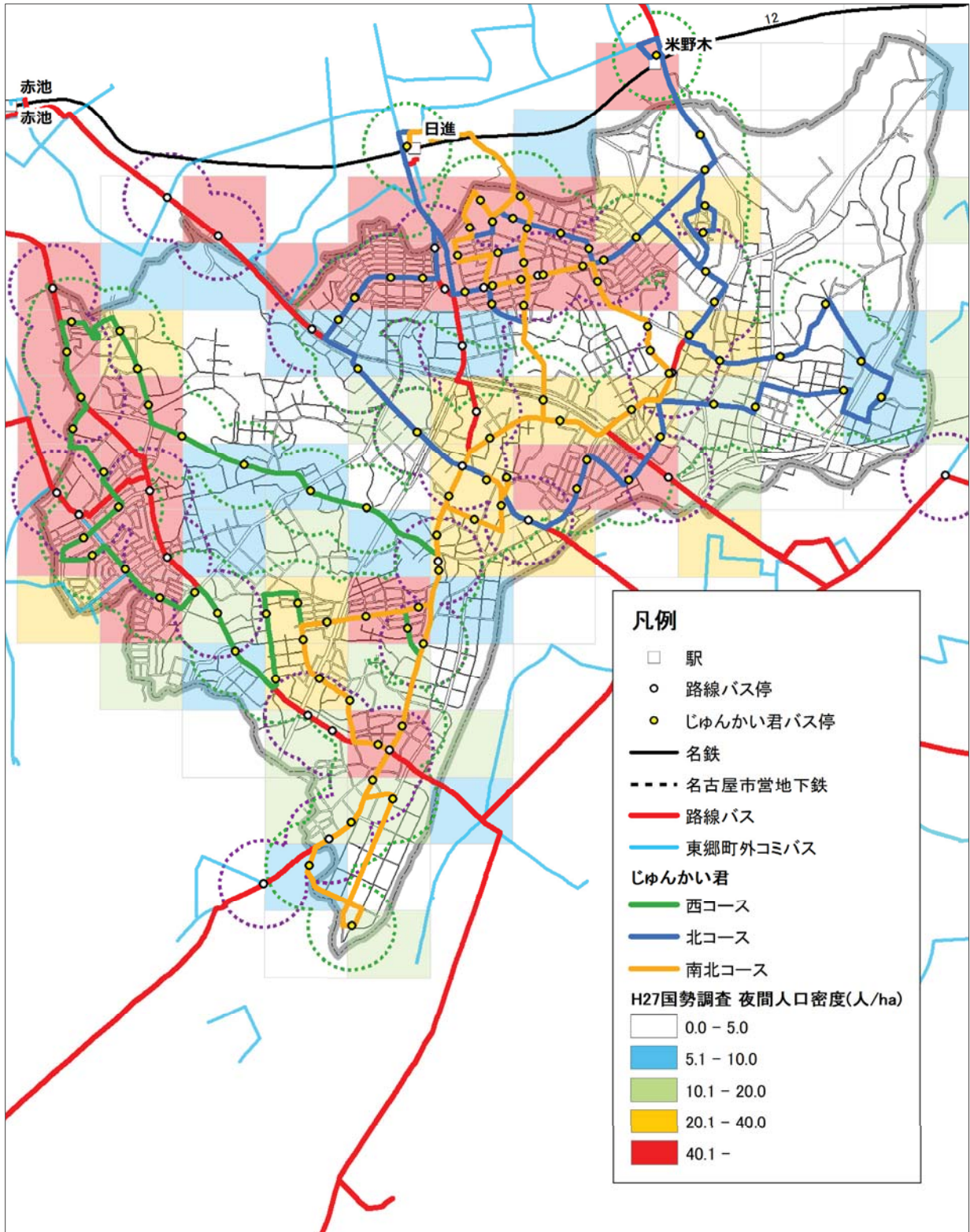
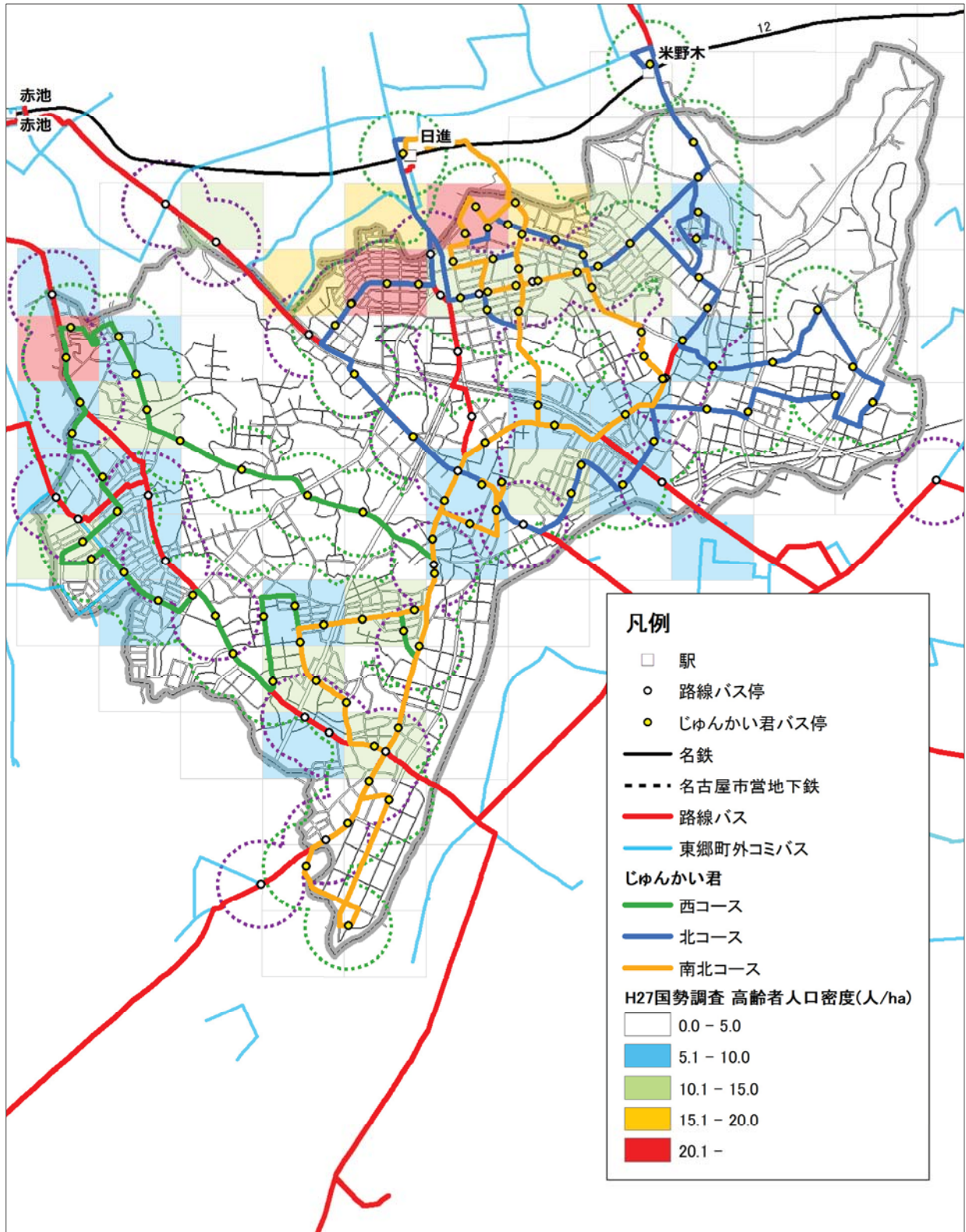


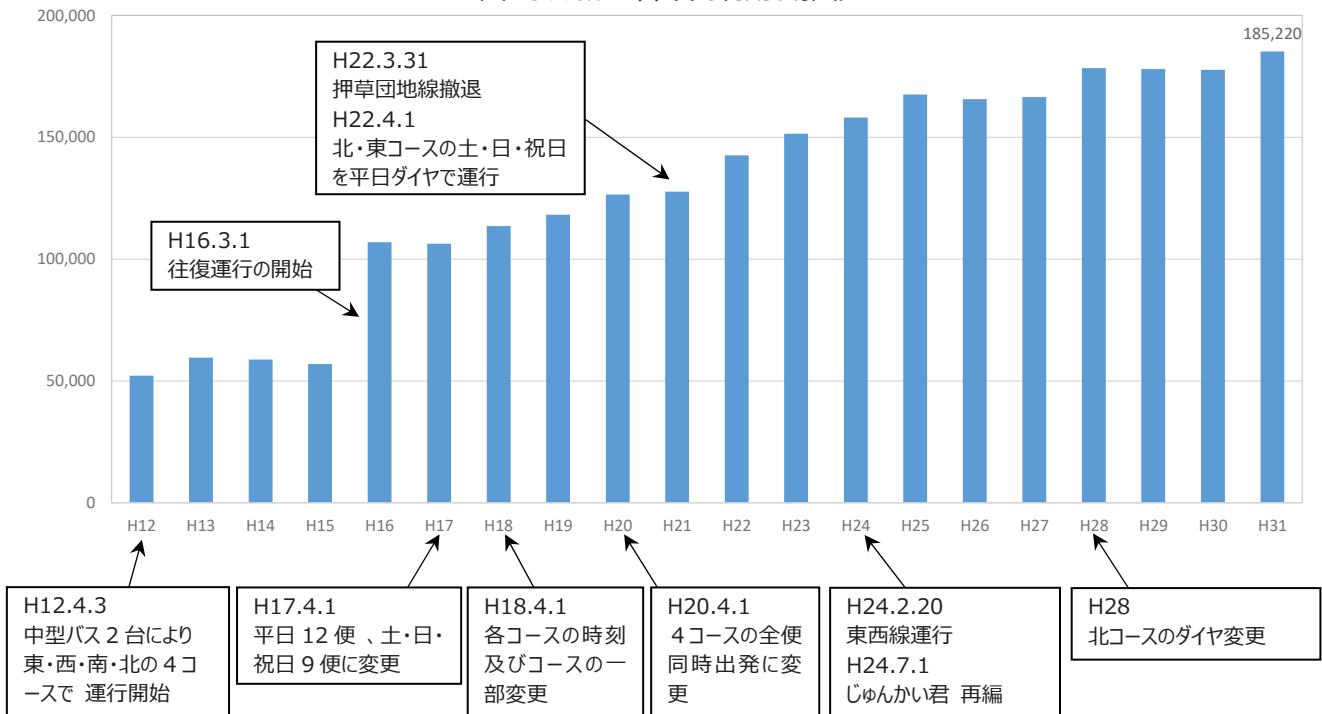
図 公共交通サービス圏域と高齢人口密度



(4) じゅんかい君利用者数の推移

- じゅんかい君の年間利用者は、概ね増加傾向にあります。

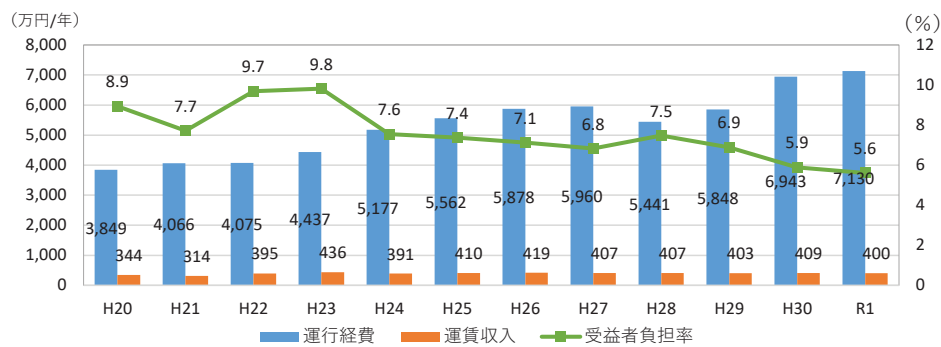
図 じゅんかい君年間利用者推移



(5) じゅんかい君の運行経費

- じゅんかい君の運行経費は増加傾向にあります。
- 受益者負担率は近年減少傾向にあり、令和元年度は5.6%となっています。
- 周辺市と比較した場合、じゅんかい君の利用者一人当たりの運行経費は低くなっています。

図 じゅんかい君の運行経費推移 (平成20年度～令和元年度)



資料：愛知県交通対策課

図 コミュニティバス利用状況等の周辺市比較 (令和元年度)

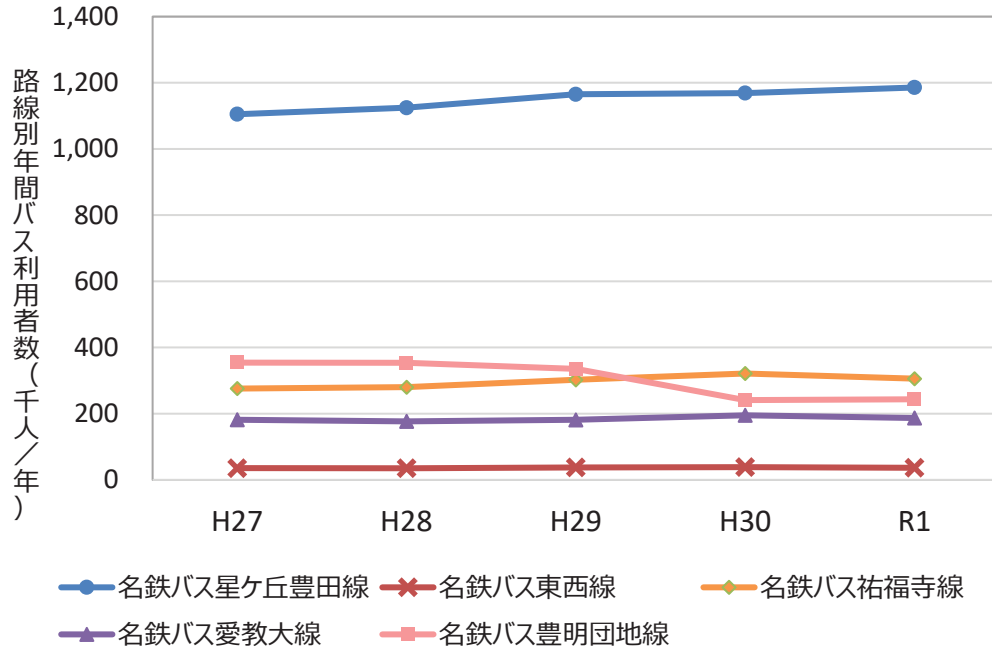
	運行経費 (千円)	年間利用者数 (人)	利用者一人当たり 運行経費 (円/人)
東郷町	71,303	184,684	386
長久手市	147,420	254,653	579
日進市	162,066	323,614	501
みよし市	120,934	282,068	429
豊明市	75,936	167,459	453

資料：愛知県交通対策課

(6) 名鉄バス年間利用者数の推移

- 町内で運行する名鉄バス各路線の年間利用者数について、豊明団地線は微減傾向、星ヶ丘豊田線は微増傾向、その他路線は横ばいとなっています。

図 名鉄バス年間利用者推移



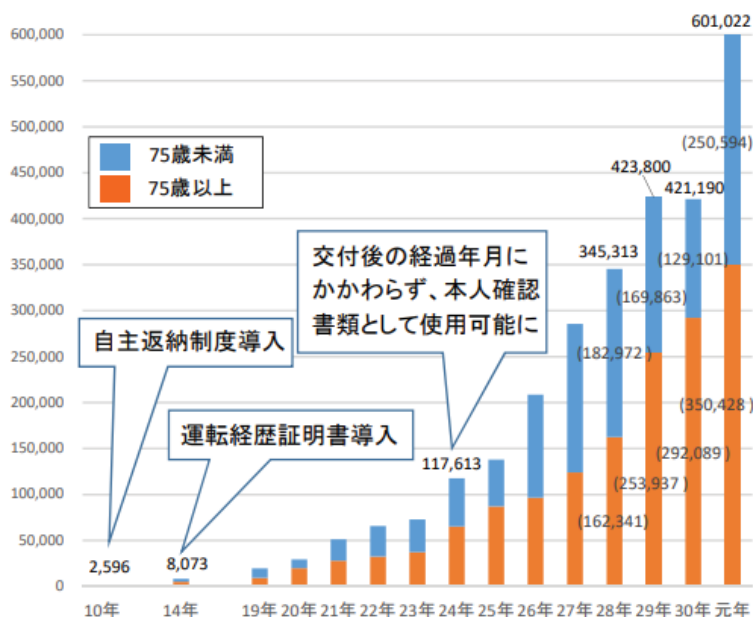
資料：名鉄バス

4 公共交通を取り巻く社会情勢

(1) 免許返納者等の自家用車を利用できない人の移動手段

- 近年、運転免許証の自主返納者が急激に増加しています。
- 公共交通は子どもたちなど、自家用車の運転ができない人の移動手段としての役割を有しています。

図 免許返納者数の推移（全国）



資料：警察庁

(2) 公共交通への先進技術の活用

- 通信技術やAIを活用した自動運転技術や配車システムの実装など、公共交通の運行に関わる技術が大きく進展しています。
- 公共交通の運行情報の検索・予約・決済などが一元的にできるアプリケーション(MaaS アプリ)が開発され、各地で実証実験が行われています。

図 MaaSのイメージ



資料：政府広報オンライン

(3) 公共交通がもたらす財政圧縮機能（クロスセクター効果）

- 地域公共交通のクロスセクター効果とは、地域公共交通を廃止した時に追加的に必要となる多様な行政部門の分野別代替費用と、運行に対して行政が負担している財政支出を比較することにより把握できる地域公共交通の多面的な効果です。
- 地域の公共交通が運行されなくなった場合、買物や通院など、様々な利用目的に対してそれぞれに移動手段を用意しなければなりません。
- 地域公共交通の運行経費のうち、運賃収入でまかなえない部分（いわゆる「赤字」）は、利用目的それぞれに移動手段を確保する場合より、小さな費用で抑えられる可能性があります。

図 地域公共交通のクロスセクター効果のイメージ

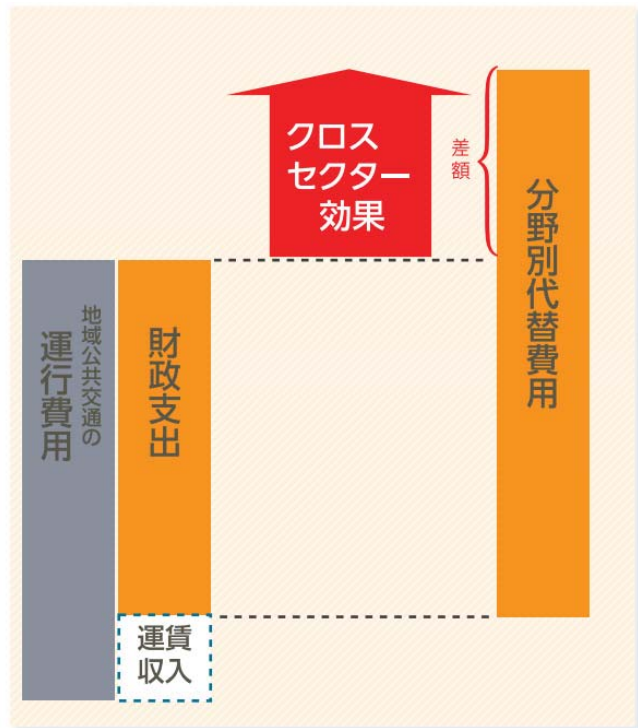


図 地域公共交通が持つ多面的な役割



資料：近畿運輸支局

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「新しい生活様式」の実践

- 2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大の影響による外出自粛に伴い、公共交通の利用者は大幅に落ち込んでいます。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「新しい生活様式」の実践が求められており、公共交通の利用については、会話を控えることや、時差利用を求めることとともに、徒歩や自転車を併用した移動が推奨されています。

図 新型コロナウイルス感染症による乗合バスへの影響

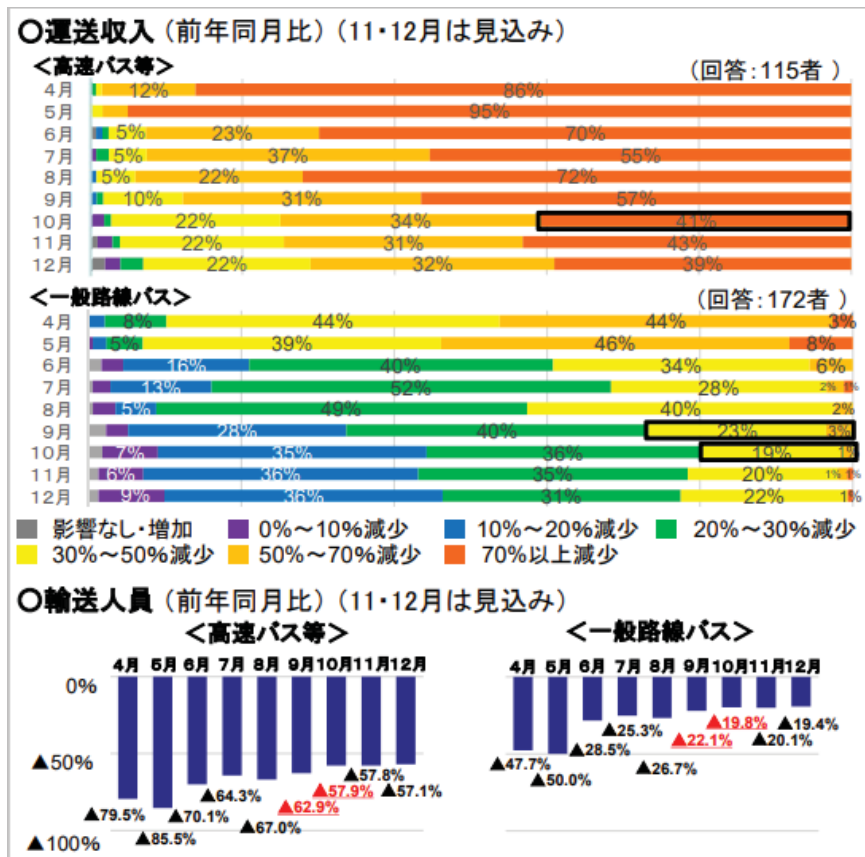


図 新しい生活様式 (抜粋)

(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食卓

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

資料：厚生労働省

Ⅱ 各種ニーズ・利用実態の把握・分析

1 各種調査の実施概要

東郷町内を運行するバスの利用実態や利用特性、町民の普段の交通行動やニーズを把握し、今後の交通施策の方向性並びに将来の交通の姿を検討する基礎資料とするため、各種ニーズ・利用実態調査を実施しました。

表 各種ニーズ・利用実態調査の概要

実施調査	町民アンケート	乗降調査			利用者アンケート			集客施設調査	
調査実施日	令和2年 8月21日～9月3日	平日：令和2年10月22日(木) 休日：令和2年10月25日(日)						令和2年 10月25日(日)	
調査対象	東郷町に居住する 15歳以上の町民 3,000人(無作為抽出)	じゅんかい君・名鉄バス東 西線の全利用者 名鉄バス星ヶ丘豊田線・愛 教大線・祐福寺線の抽出便 利用者			じゅんかい君・名 鉄バス東西線の 全利用者			「ららぽーと 愛知東郷」来訪 者	
調査方法	配布・回収ともに郵 送方式 (Googleフォームで のWeb回答併用)	バス車内で調査カードを手 渡し・降車時回収			バス車内で手渡 し配布・郵送回収 (Googleフォーム でのWeb回答併 用)			店舗内でヒア リング	
回収数 (回収率)	1,313票 (43.8%) ※Web回答186票を含む		平日	休日	配布	回収	回収率	141票	
		じゅん かい 君	北コース(左)	129	99	182	53	29.1%	
			北コース(右)	148	92				
			西コース	73	34				
			南北コース	118	69				
		名鉄 バス	東西線	79	83	104	27	26.0%	
			星ヶ丘豊田線	823	903				※Web回答7票を含む
			愛教大線	475	280				
			祐福寺線	318	202				
		合計	2,163	1,762	414	146	35.3%		
調査内容	交通行動実態、施策 効果、バス交通維持 のあり方、バス交通 の重要度等	バス利用実態、OD等			バス利用実態、バ ス利用満足度、バ ス交通の重要度 等			利用実態、来店 特性、公共交通 利用意向等	

※OD:OはOrigin(出発地)、DはDestination(目的地)を表し、人や自動車の移動の起終点のこと。

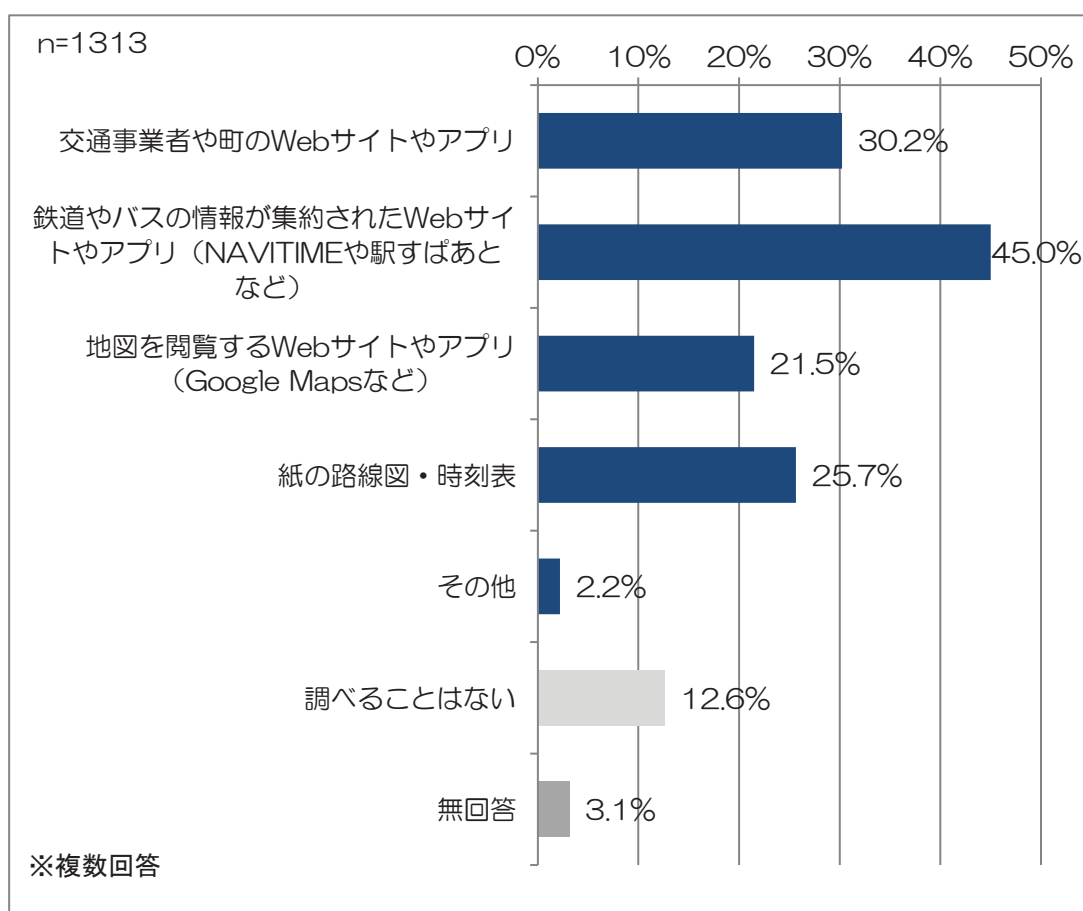
2 町民アンケートの結果

町民アンケートでは、東郷町にお住まいの方々の日ごろの移動実態や公共交通に対する意向についてお聞きしました。

公共交通の情報をより効果的に周知・PRするため、日ごろどのような手段で公共交通の情報を調べているのかについてお聞きしました。

公共交通を利用する際、時刻や経路などを調べる手段については、「鉄道やバスの情報が集約されたWebサイトやアプリ」が最も高く45.0%ですが、「紙の路線図・時刻表」も25.7%利用されています。

▼鉄道やバスなどを利用する際 時刻や経路などを調べる手段



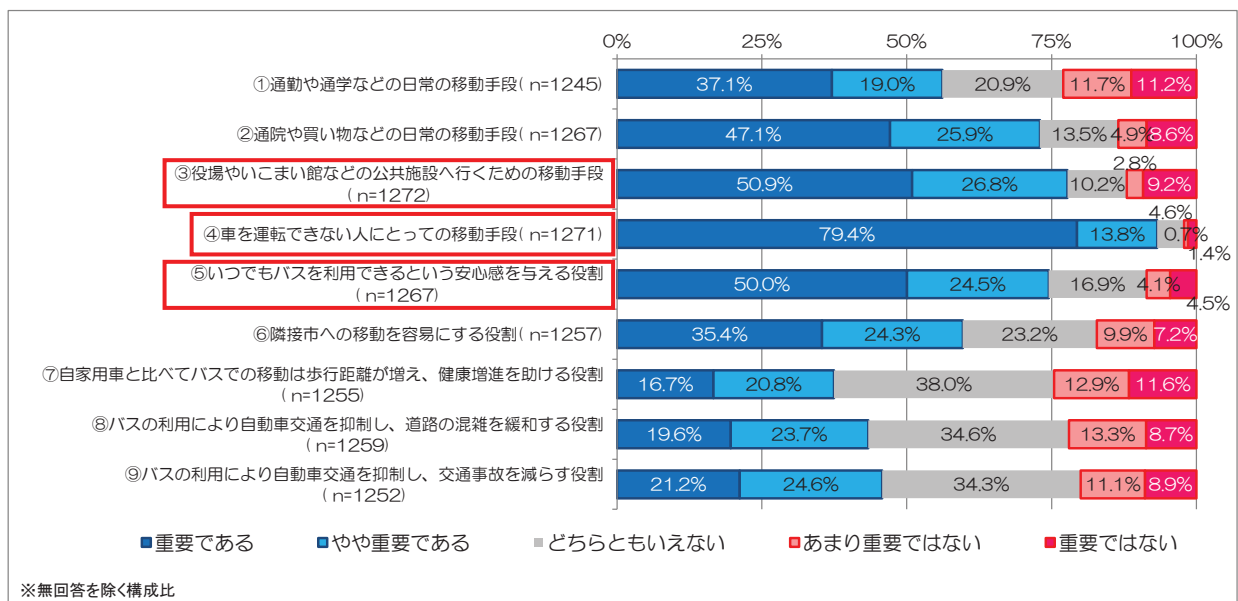
公共交通の機能を明確化するため、町内を運行するじゅんかい君・路線バスについて、それぞれどのような役割を期待しているかをお聞きしました。

じゅんかい君・名鉄バスともに「④車を運転できない人にとっての移動手段」が最も重要度の高い項目となりました。

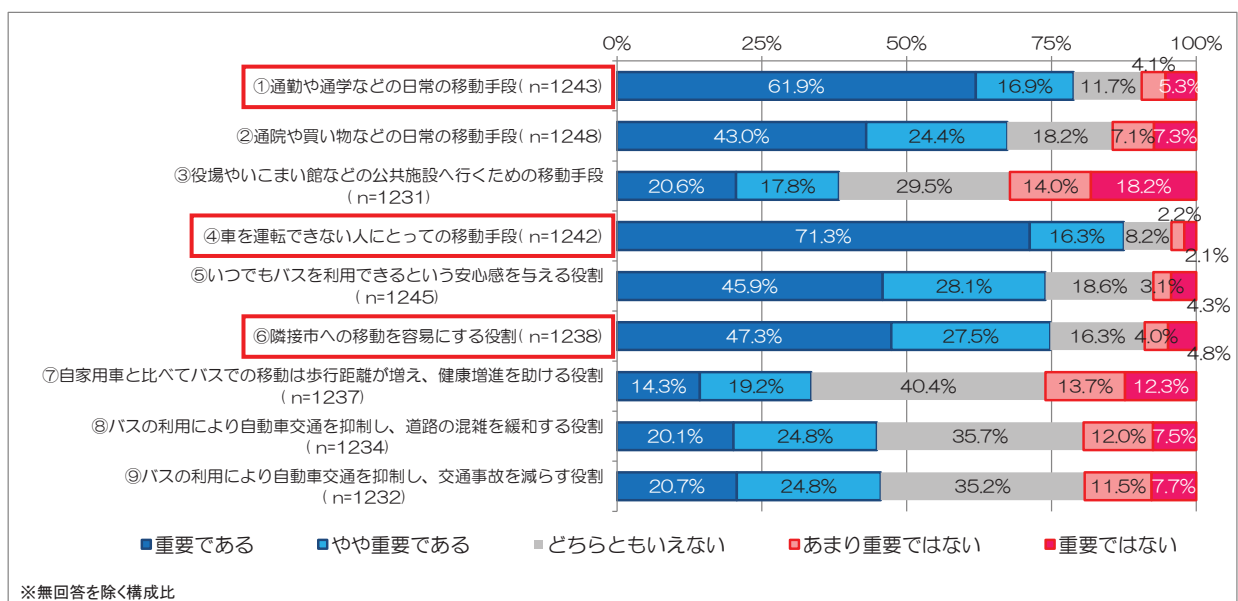
じゅんかい君では、「③役場やいこまい館などの公共施設へ行くための移動手段」「⑤いつでもバスを利用できるという安心感を与える役割」が2番目・3番目となり、町内の移動での役割が期待されています。

名鉄バスでは、「①通勤や通学などの日常の移動手段」「⑥隣接市への移動を容易にする役割」が2番目・3番目となり、広域的な移動での役割が期待されています。

▼じゅんかい君の役割



▼名鉄バスの役割

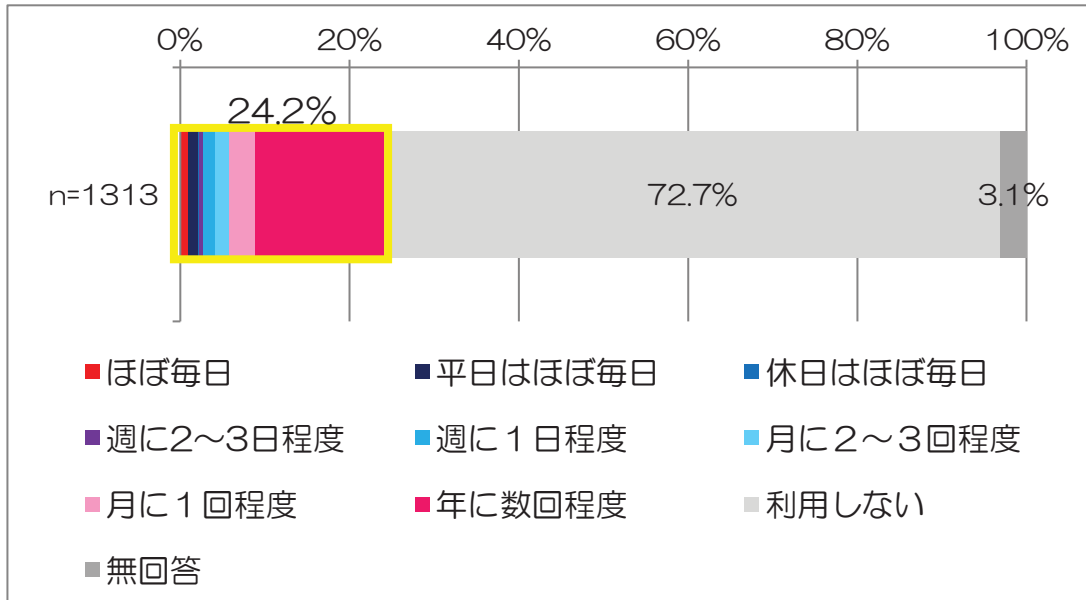


セントラル地区のバスターミナル供用開始に合わせた新規路線の需要について把握するため、利用意向や利用する目的についてお聞きしました。

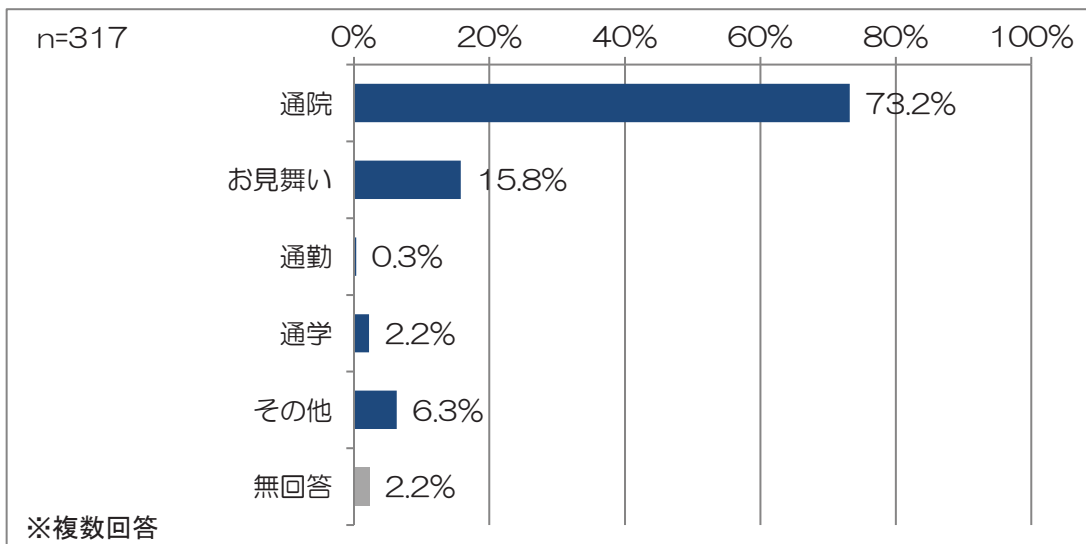
藤田医科大学病院への新規路線の利用意向は、「利用しない」が72.7%と最も高くなっていますが、「年に数回程度」以上利用するとの回答が24.2%となっています。

また、利用目的は「通院」が73.2%と最も高くなりました。

▼新規路線の利用意向

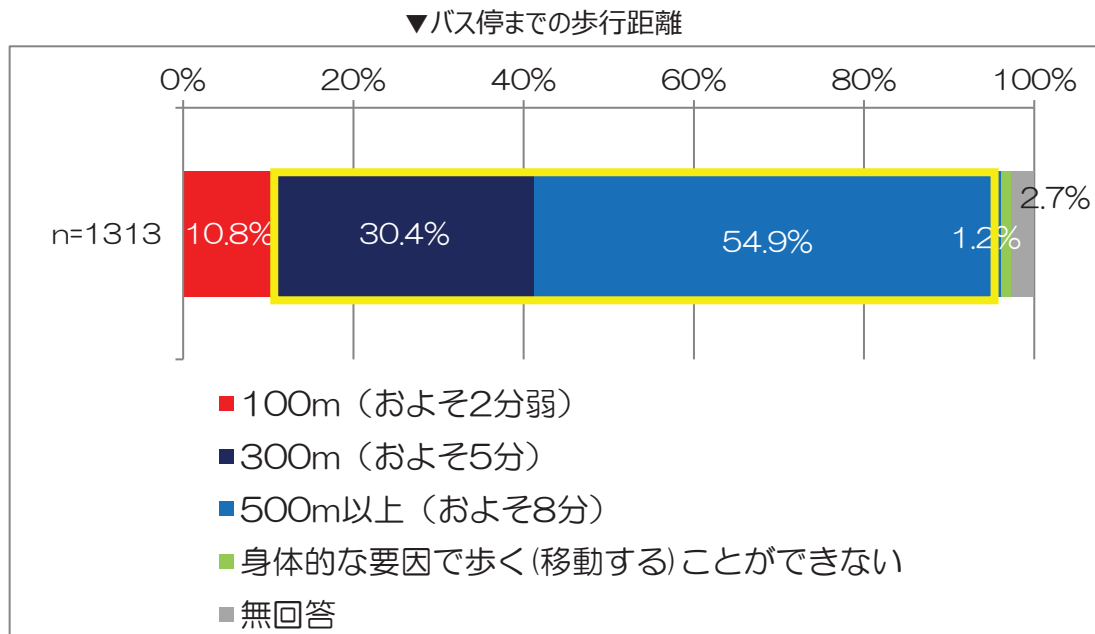


▼新規路線の利用目的



公共交通利用圏域の妥当性を検証するとともに、新しいモビリティの導入可能性を検討するため、バス停まで歩くことが出来る距離についてお聞きしました。

バス停まで一人で歩ける距離については、「500m以上（およそ8分）」が半数以上を占める54.9%、「300m（およそ5分）」が30.4%となっており、公共交通利用圏域としている「バス停から半径300m」にあたる、上記の2項目を足し合わせると85.3%となります。

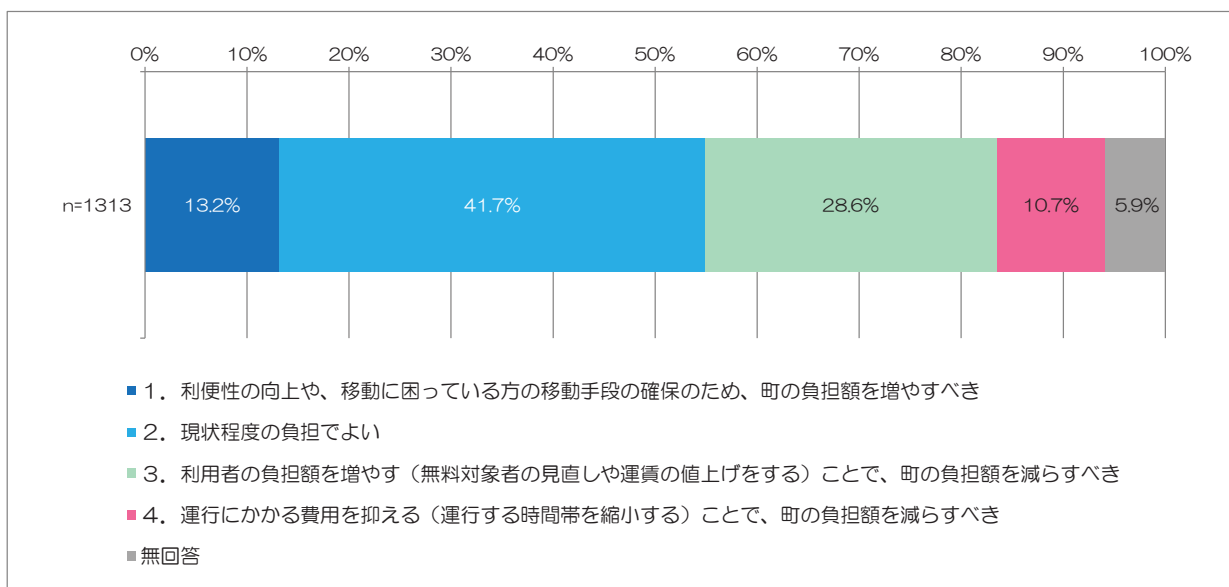


地域の公共交通を維持していくため、今後のじゅんかい君の経費負担や運賃設定をどのように考えるべきかについてお聞きしました。

じゅんかい君の運行経費の負担については、「現状程度の負担でよい」が最も高く41.7%、次いで「利用者の負担額を増やす（無料対象者の見直しや運賃の値上げをする）ことで、町の負担額を減らすべき」が28.6%となっています。

運賃設定を見直す（無料対象者の見直しや値上げ）とした場合に、許容できる金額については、現在100円としている1乗車は、平均で「193.9円」、現在無料としている65歳以上の高齢者は、平均で「115.6円」となりました。

▼経費負担



▼許容できる運賃

	最高金額	平均金額
①1乗車の運賃（現在100円）の許容できると思う金額	500円	193.9円
②65歳以上の方の運賃（現在無料）の許容できると思う金額	500円	115.6円

3 乗降調査の結果

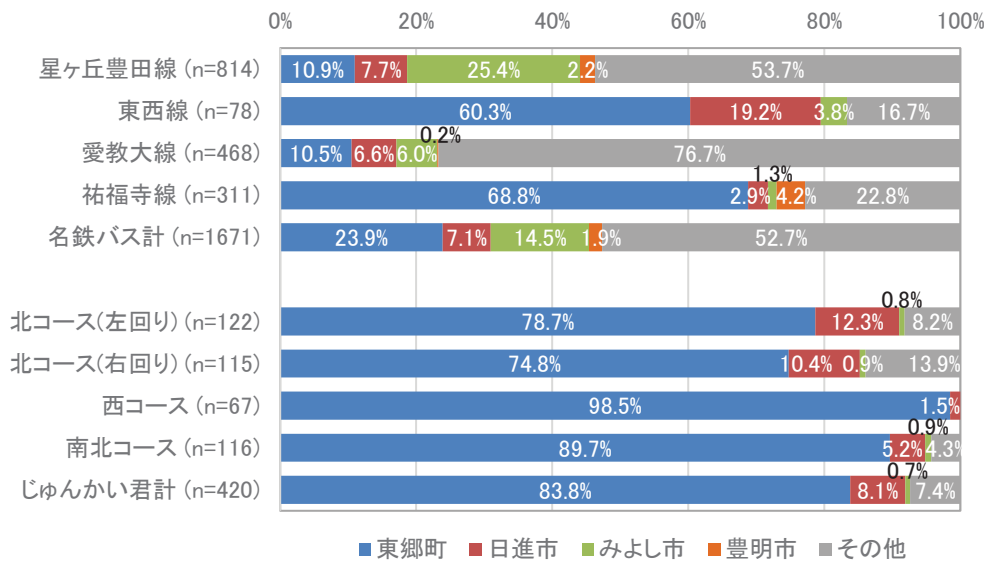
乗降調査では、町内を運行する路線バス・じゅんかい君の利用特性や利用実態を把握しました。

【居住地】

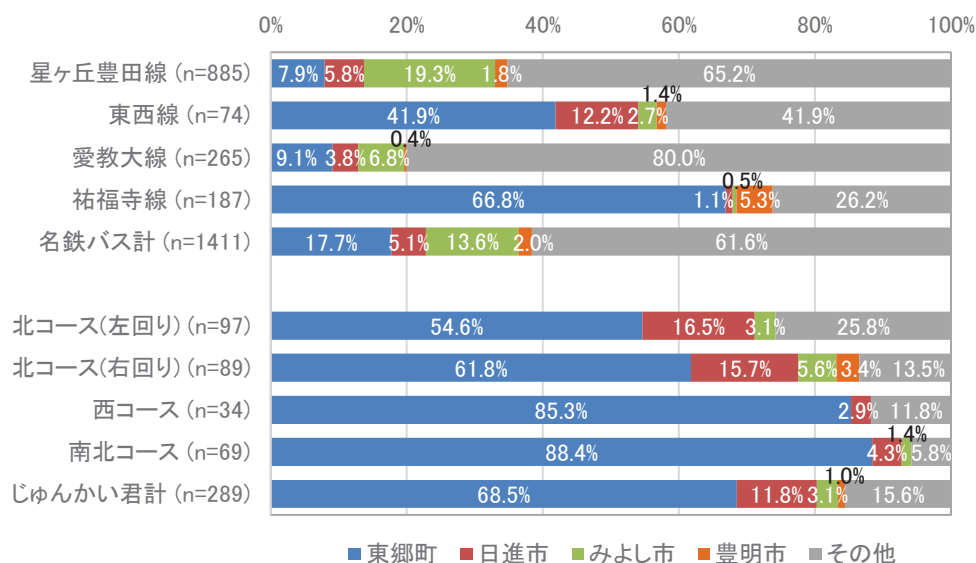
名鉄バス利用者の居住地は「東郷町」が平日 23.9%、休日 17.7%となっています。祐福寺線や東西線で割合が高く、星ヶ丘豊田線や愛教大線では低くなっています。

じゅんかい君利用者の居住地は「東郷町」が平日 83.8%、休日 68.5%となっています。西コースや南北コースで割合が高く、北コースでは低くなっています。

▼平日



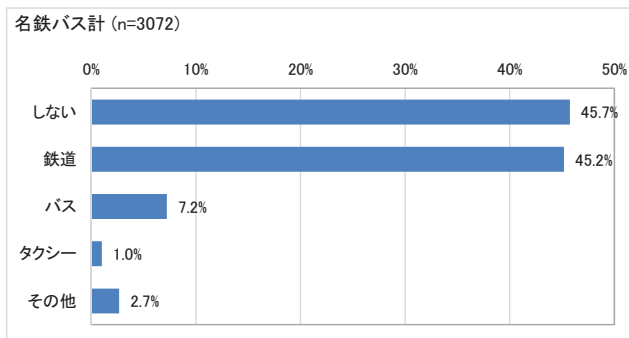
▼休日



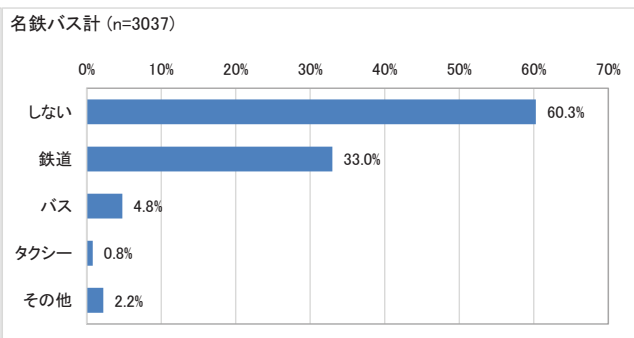
【乗り継ぎ】

バス乗車前・バス降車後の乗り継ぎについて、名鉄バス・じゅんかい君ともに「乗り継ぎしない」利用が多くなっていますが、名鉄バスは「鉄道」との乗り継ぎでの利用も多く見られます。

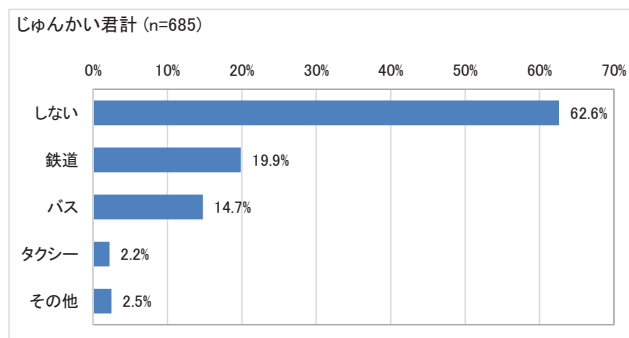
▼名鉄バス 平日休日合計 バス乗車前



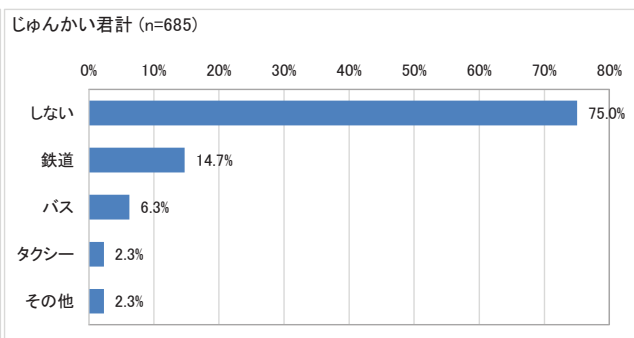
▼名鉄バス 平日休日合計 バス降車後



▼じゅんかい君 平日休日合計 バス乗車前



▼じゅんかい君 平日休日合計 バス降車後



【利用者OD】

西コースは福祉センターやいこまい館といった町中心部と、町西部の住宅地の各バス停間での利用が多くみられます。

図 じゅんかい君 (西コース 右回り) 平日

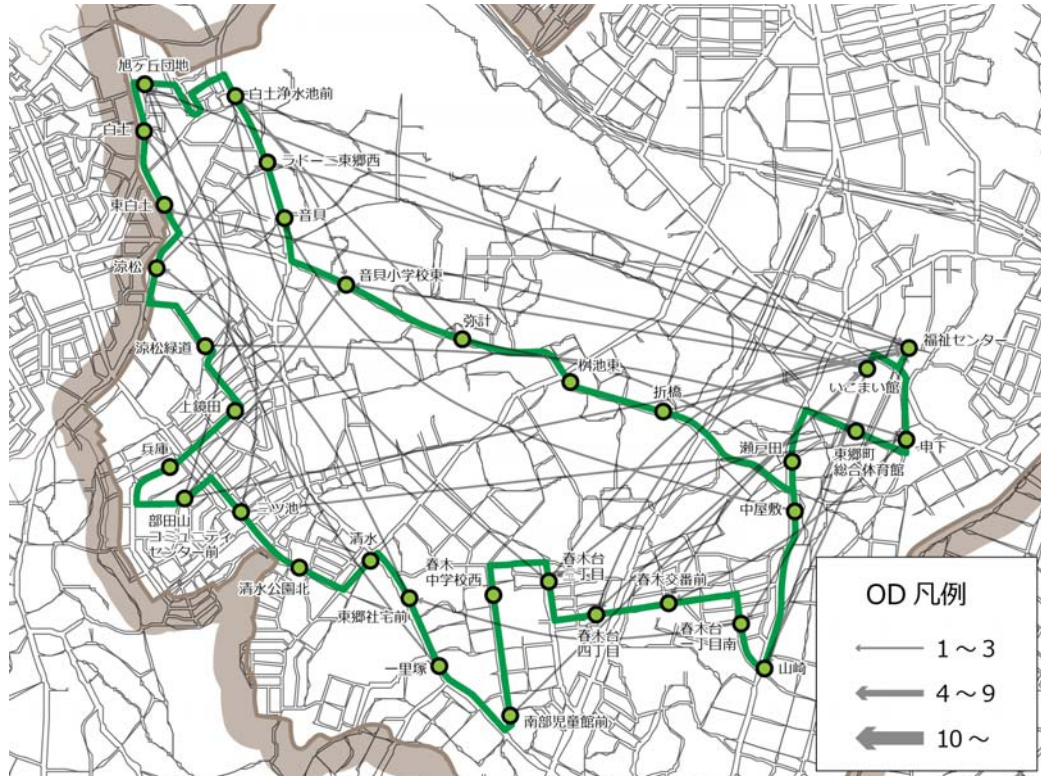
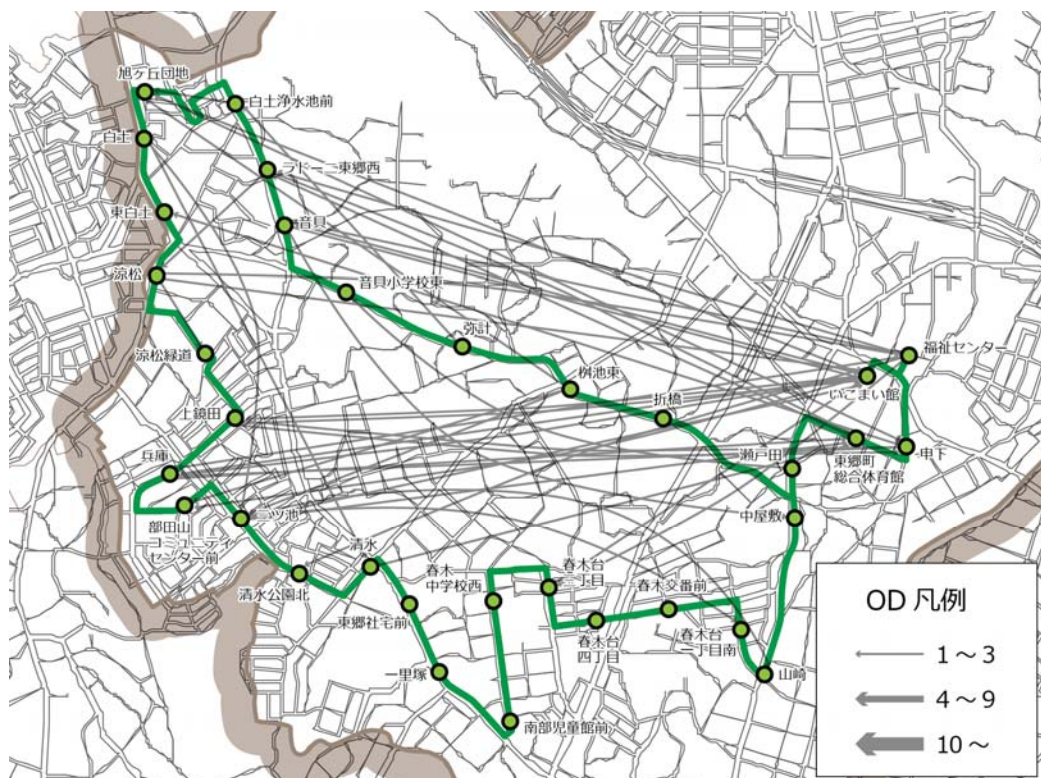


図 じゅんかい君 (西コース 左回り) 平日

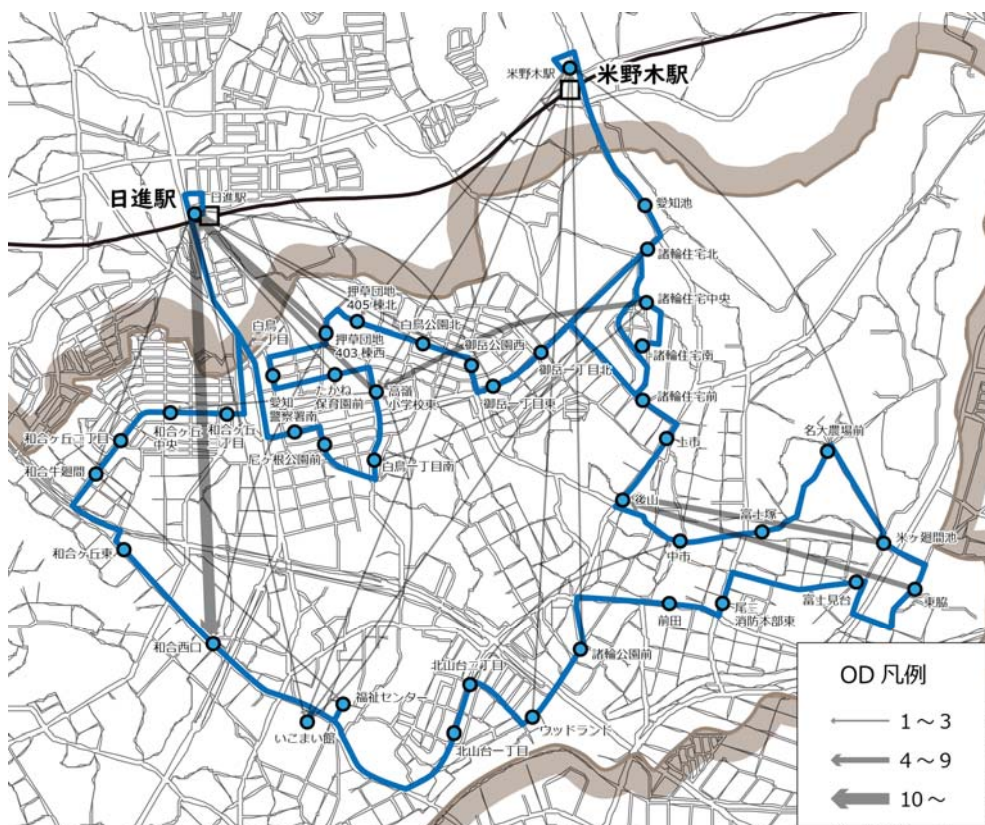


北コースは日進駅・米野木駅の利用が多くみられます。また、和合西口（ららぽーと愛知東郷）や高嶺小学校東（パレマルシェ東郷店）といった買物利用、後山～東脇の通学利用が多くみられます。

図 じゅんかい君（北コース 右回り）平日



図 じゅんかい君（北コース 左回り）平日



南北コースは日進駅と町北部の住宅地内の各バス停の利用が多くみられます。また、四ツ塚～部田コミュニティセンター前の利用は、小学生の通学利用で多く利用されています。

図 じゅんかい君 (南北コース 右回り) 平日



図 じゅんかい君 (南北コース 左回り) 平日



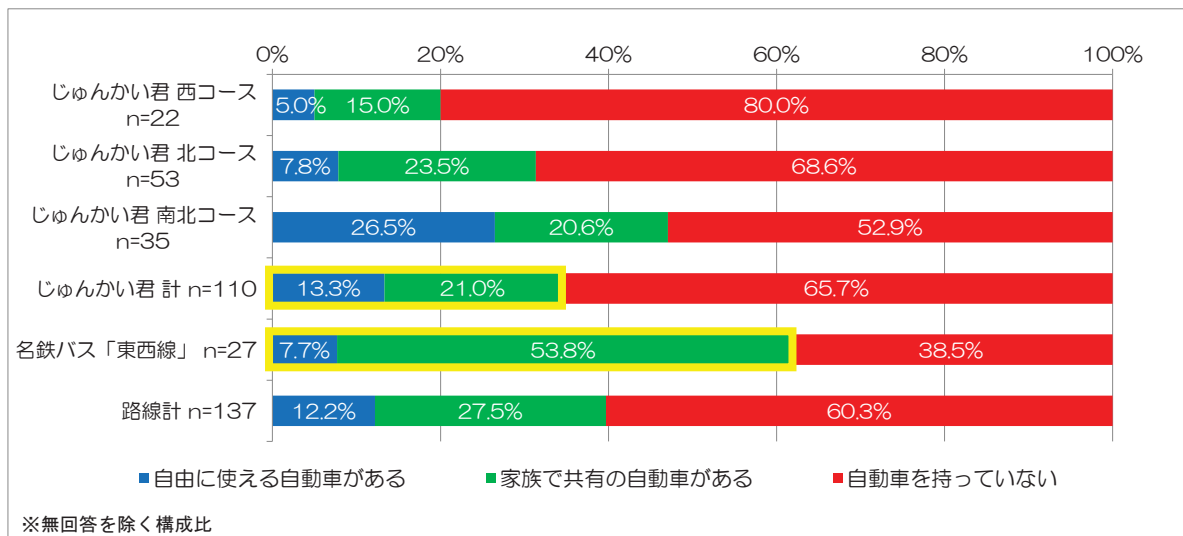
4 利用者アンケートの結果

利用者アンケートでは、じゅんかい君および名鉄バス「東西線」の利用者を対象に、利用状況やサービス項目別の満足度などについてお聞きしました。

【自動車の保有状況】

バス利用者の自動車保有率は、じゅんかい君では34.3%、名鉄バス「東西線」では61.5%となっていますが、「自由に使える自動車がある」と回答した方は、じゅんかい君では13.3%、名鉄バス「東西線」では7.7%となっています。

▼自動車の保有状況



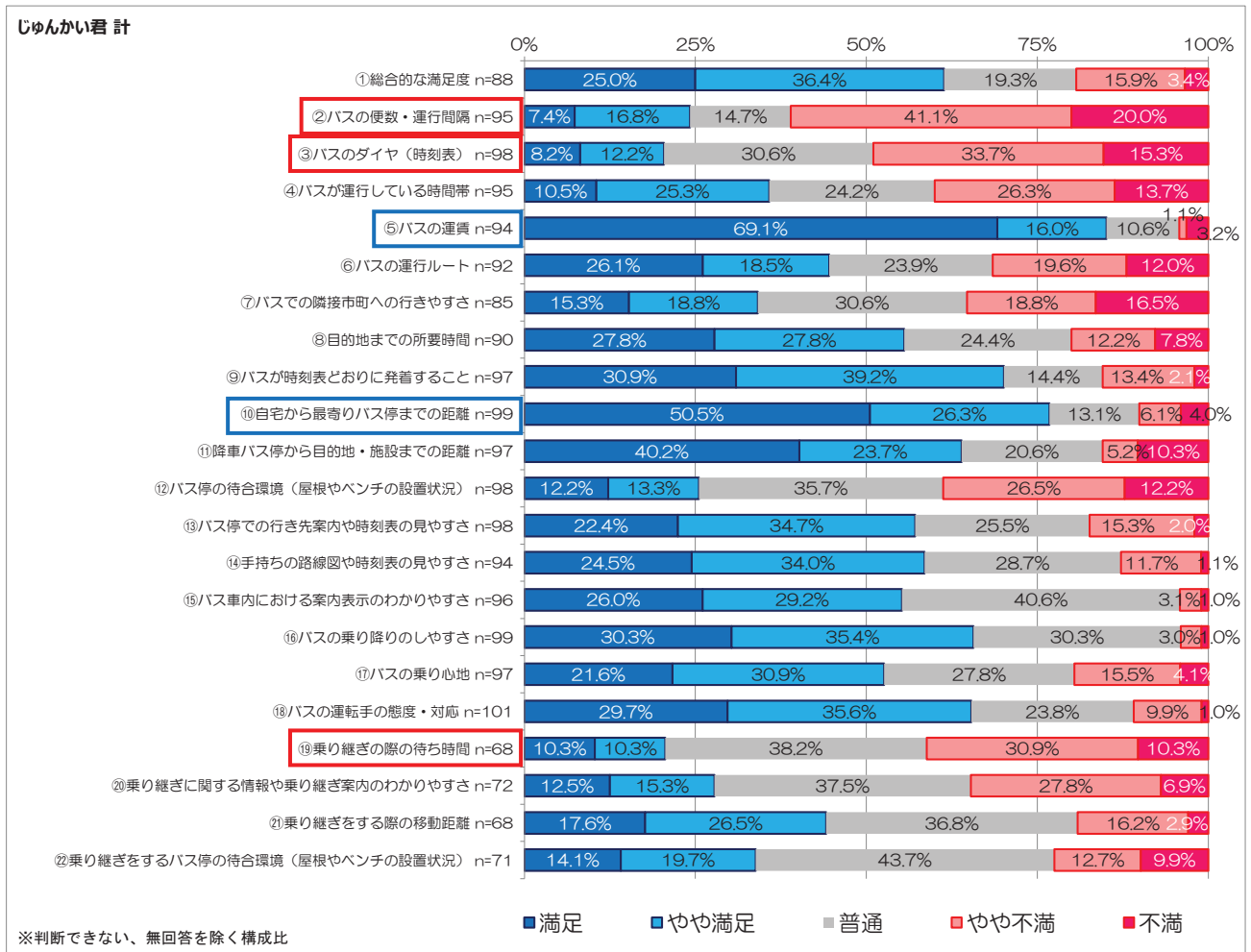
【サービス項目別の満足度】

サービス項目別の満足度は、「②バスの便数・運行間隔」に対する不満割合（不満+やや不満）が、じゅんかい君・名鉄バス「東西線」ともに最も高くなっています。

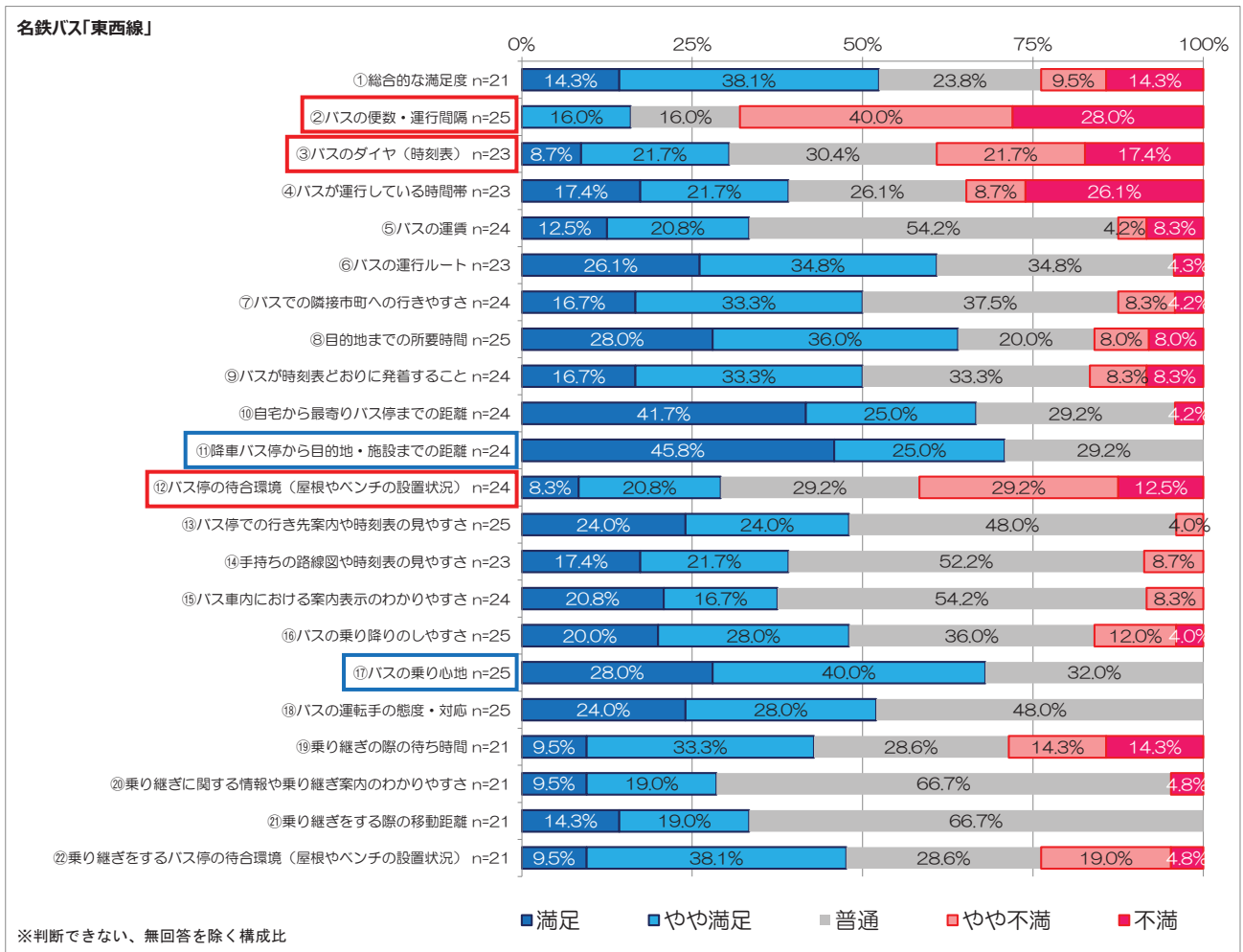
また、じゅんかい君では「③バスのダイヤ」「⑨乗り継ぎの際の待ち時間」、名鉄バス「東西線」では「⑫バス停での待合環境」「③バスのダイヤ」に対する不満割合が高くなっています。

一方、満足度（満足+やや満足）が高い項目は、じゅんかい君では「⑤バスの運賃」「⑩自宅から最寄りバス停までの距離」、名鉄バス「東西線」では、「⑪降車バス停から目的地・施設までの距離」「⑰バスの乗り心地」となっています。

▼サービス項目別の満足度（じゅんかい君）



▼サービス項目別の満足度（名鉄バス「東西線」）

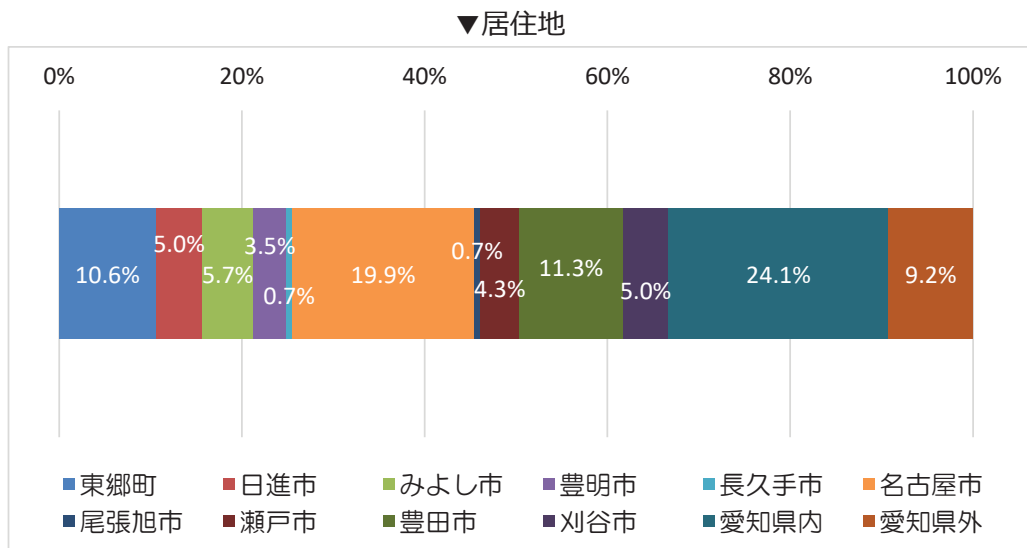


5 集客施設調査の結果

集客施設調査では、「ららぽーと愛知東郷」の来訪者を対象に、その特性や公共交通の利用意向などをお聞きしました。

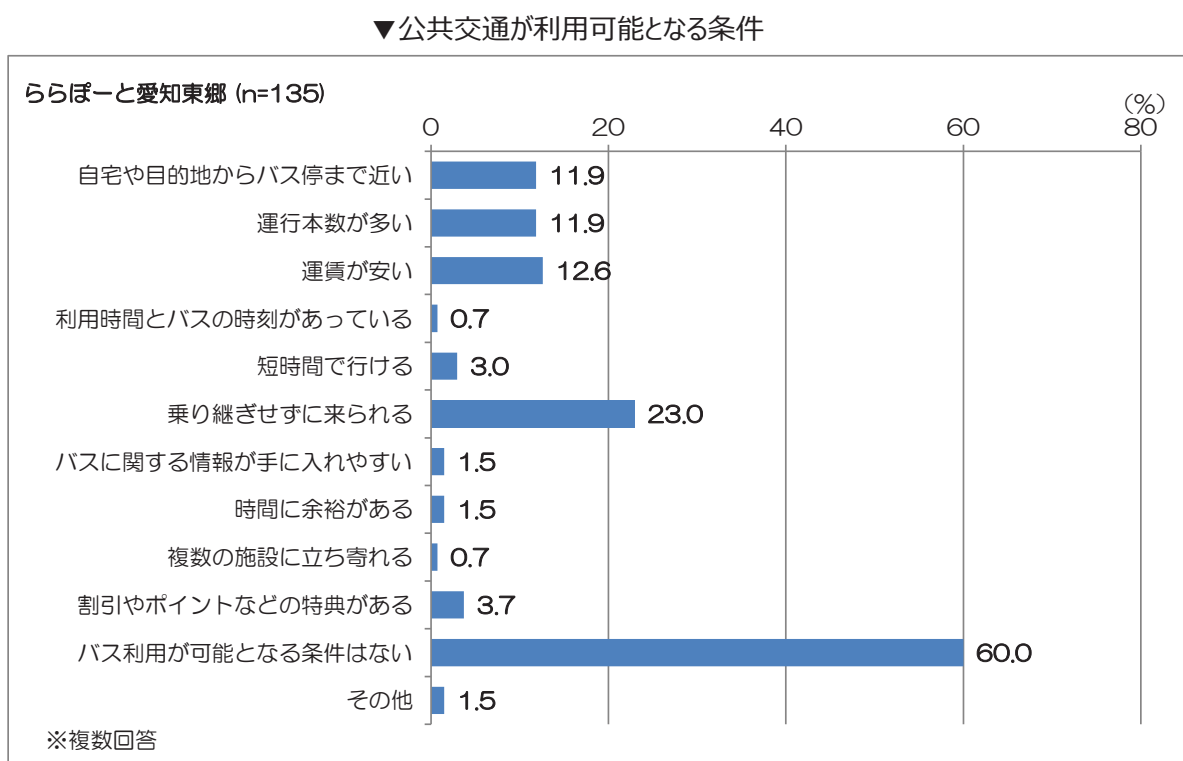
【居住地】

居住地は「名古屋市」が最も多く 19.9%、次いで「豊田市」が 11.3%となっており、「東郷町」は 10.6%となっています。



【ららぽーと愛知東郷へ行く際に公共交通が利用可能となる条件】

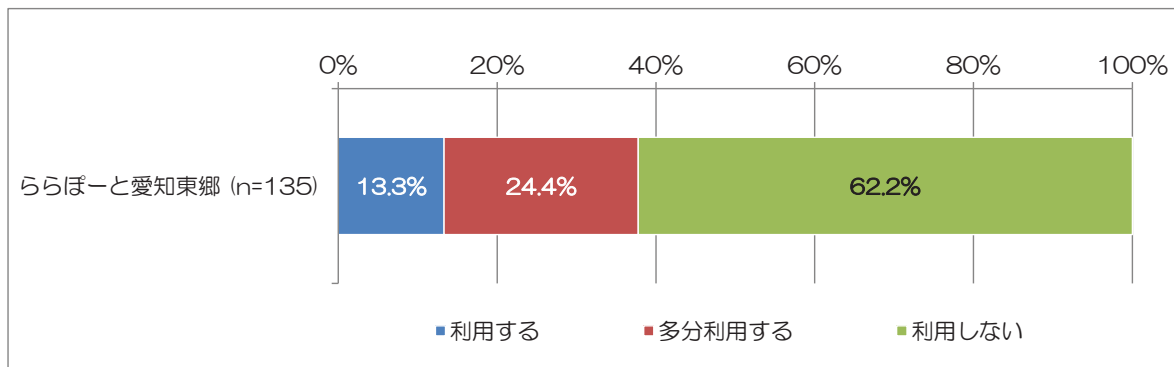
公共交通が利用可能となる条件については、「バス利用が可能となる条件はない」が最も多くなっていますが、「乗り継ぎせずに来られる」23.0%、「運賃が安い」12.6%と続いています。



【公共交通が利用可能となる条件が改善されたときの利用意向】

公共交通の利用意向については、「利用しない」が62.2%、「利用する」と「多分利用する」を合わせると37.7%となっています。

▼公共交通



Ⅲ 東郷町地域公共交通網形成計画の評価

1 個別事業の進捗状況の確認

東郷町地域公共交通網形成計画で位置づけた基本方針を達成するための事業(21項目)について、それぞれの取組状況を確認し、実施した施策に関しては、実施内容や効果を整理するとともに、未実施の施策に関してはその理由を把握します。また、それぞれの事業について今後の方針を整理します。

表 東郷町地域公共交通網形成計画に定めた各事業の進捗確認シート（東郷町地域公共交通網形成計画 [平成 28 年 4 月策定] で位置づけた基本目標を達成するための施策の取組み状況） 1/2

No	実施事業	実施内容	実施主体	事業スケジュール	進捗状況	実施済または実施中の取組みの概要	実施済または実施中の取組みの効果と影響	未実施の要因	今後の方針
1	(1) 幹線バスの継続運行	東西線、豊明団地線 適正なサービスの提供	交通事業者	H28～H32： 継続運行	実施中	赤池駅～御岳～イオン三好店アイモール前を結ぶ東西線については、本町と名鉄バスの協議路線で、地域間幹線系統に位置付けられている路線。豊明団地線については、赤池駅～名鉄白土～地下鉄徳重～前後駅を運行。	東西線・豊明団地線ともに、本町から最寄の赤池駅や徳重駅に接続する路線である。名古屋市営地下鉄を利用できることから、名古屋方面への通勤・通学の足となるとともに、大型商業施設等買い物の足にもなっている。	—	各路線について、運行を継続。東西線については、協議路線であることから、利用者数等を検証し、路線のあり方について検討。
		赤池豊田線、祐福寺線、愛教大線 セントラル地区乗り入れ	東郷町地域公共交通会議・交通事業者	H28～H32： 継続運行・再編計画作成・再編運行開始	実施中・未実施	星ヶ丘豊田線、祐福寺線、愛教大線について、継続運行中。祐福寺線については、令和2年4月より、新規路線を開設。	星ヶ丘豊田線、祐福寺線、愛教大線については、通勤・通学、買い物等、生活の足となる路線である。また、祐福寺線の新規路線については、新たに白土地区を經由することで、これまで公共交通機関を利用することが困難であった町民の足になっている。	愛教大線については、令和3年4月からバスターミナルに乗り入れ開始予定。	各路線については、ららぽーと愛知東郷開業に伴う交通需要の変化等を見ながら、乗り入れや路線変更等について検討。
	新たな幹線 セントラル地区～徳重駅	東郷町地域公共交通会議・交通事業者	H29～H32： 検討・再編計画作成・再編運行開始	未実施	—	—	三井不動産がバスターミナル～徳重地区を結ぶ令和3年1月から一部区間自動運転バスを計画。	運行を継続しながら、交通需要をみて、必要に応じて路線変更等について検討。	
2	(1) 支線バスの見直し	じゅんかい君 路線再編	住民・東郷町地域公共交通会議・交通事業者	H28～H32： 継続運行・再編計画作成・再編運行開始	未実施	—	—	全コースバスターミナルを発着点とする再編路線について、令和3年4月から運行開始予定。	運行を継続しながら、交通需要をみて、必要に応じて路線変更等について検討。
		じゅんかい君 4条運行へ移行	東郷町・交通事業者	H28～H29上期： 79条運行 H29下期～H32： 4条運行	実施済・実施中	平成29年10月から、道路運送法第79条から同法第4条に基づくバス事業者主体の運行に移行した。	バス事業者が主体となることで、よりきめ細かかつ安全な運行管理を行うことが可能となった。	—	引き続き、道路運送法第4条に基づく運行を継続。
	(2) タクシーの活用	バスサービスの補完	交通事業者	H28～H32： 検討・実施	実施中	高齢者、障がい者及び妊産婦を対象とするタクシー助成事業を実施中。対象者に対し、タクシー料金利用助成券を交付。	高齢者、障がい者タクシー料金助成事業については、平成30年度までは、1枚500円のチケットを交付し、利用については1回1枚を上限としていたが、1枚200円のチケットにし、上限を撤廃。助成金額が大きく増加したことから、外出機会創出につながった。妊産婦タクシー料金助成事業については、育児・出産支援として、令和元年度から妊産婦を対象とするタクシー助成事業を開始。妊娠中や産後に運転することが困難な場合等に利用されている。	—	引き続き、タクシー助成事業を継続。デマンド型交通の実証実験の際には、タクシー料金利用助成券の利用の動向についても検証し、それぞれのあり方について検討。
3	(1) じゅんかい君・路線バス 共通情報提供	① バスマップ、時刻表、 町ホームページ	東郷町地域公共交通会議・交通事業者	H28～H32： 企画・作成・運用	実施中	バスマップにおいては毎年作成し、じゅんかい君車内を始め公共施設や地区のコミュニティセンターにも設置。ホームページ上では、じゅんかい君以外にも、名鉄バスやJR東海バスの路線についても掲載。平成30年度からGTFSによる乗換検索の表示を開始し、そのことについてホームページで掲載。	人が集まる場所にバスマップを設置することで、利用者にとってバスマップを入手しやすいことはもちろん、利用していない人の目にも触れ、利用するきっかけにつながっている。インターネット環境がある人については、いつでもじゅんかい君のバスマップを見ることができるとともに、路線を確認することが可能。尾三地区でGTFSによる乗換検索の表示を開始することで、公共交通による利便性が向上。	—	引き続き、バスマップの配布を継続。ホームページでの情報発信やGTFSによる乗換検索についても、再編後の情報で更新し、継続。バスロケーションシステムの導入も検討。
		② バス車内表示	交通事業者	H28～H32： 継続運用	実施中	バス車内において、路線図や時刻表を掲示。	乗り継ぎが円滑になる。	—	引き続き、バス車内における路線図や時刻表の掲示を継続する。じゅんかい君においては、情報発信ができるような電子掲示板等の導入について検討。
		③ バス停表示	東郷町地域公共交通会議	H28～H32： 継続運用	実施中	バス停において、路線図及び時刻表を掲示。	利用者の多いバス停や夜間路線図及び時刻表が見づらいバス停については、LEDライトを設置することで、利用環境向上につなげている。	—	引き続き、バス停における路線図及び時刻表の掲示を継続するとともに、利用環境を維持。
	(2) じゅんかい君運賃改定	① 無料対象者の見直し	東郷町地域公共交通会議	H28～H32： 検討・改定・運用	未実施	—	—	交通弱者の外出機会創出の観点から、可能な限り現行の料金制度を継続する予定。	今後の経費の推移や近隣市の状況等をみながら、無料対象者の見直しについて引き続き検討。
		② じゅんかい君相互の乗換え 無料化の導入	東郷町地域公共交通会議	H28～H32： 検討・改定・運用	未実施	—	—	令和3年4月から、じゅんかい君の交通拠点で乗継無料券を配布予定。	利用状況を見ながら、拡大縮小等の方向性を検討。

No	実施事業	実施内容	実施主体	事業スケジュール	進捗状況	実施済または実施中の取組の概要	実施済または実施中の取組の効果と影響	未実施の要因	今後の方針
	(3) 乗り継ぎ拠点整備	① セントラル地区バスターミナル	東郷町・商業事業者・交通事業者	H28~H32 : 検討・整備・運用	実施済・実施中	ららぽーと愛知東郷南側正面にバス・タクシーローターが整備され、JR東海バスのバス停が「和合」バス停より移設された。	JR東海バスは移設済だが、新型コロナウイルスの影響により運休中。 令和3年4月から名鉄バスの一部路線及びじゅんかい君・藤田医科大学病院へのシャトルバスが乗入れ開始予定のため、現段階では効果等は出ていない。	—	ららぽーと愛知東郷開業に伴う交通需要の変化等を見ながら、じゅんかい君の路線やダイヤ等について検証。また、他路線の乗入れについても検討。
		② サイクル&バスライドパーク&バスライド	東郷町・商業事業者	H28~H32 : 検討・整備・運用	未実施	—	—	駐車場及び駐輪場については、ららぽーと愛知東郷の来客用のものであるため、バス利用者が乗り継ぎのために利用することは困難。	
	(4) 待ち合い環境整備	待ち合い環境の整備	東郷町・商業事業者	H28~H32 : 継続検討	未実施	—	—	停留所には、上屋を設置し、待合環境を整備。	
	(5) 環境対策・バリアフリー化	バス車両の改善及び車両更新 (低公害車両、ノンステップバス)	交通事業者・東郷町	H28~H32 : 検討・車両更新に合わせ導入	未実施	—	—	平成28年から令和2年の間に車両を更新していない。	車両の次期更新時において、さらに乗りやすいバスとなるよう検討。
3	(6) 地域づくりと一体となった取組	バスを活用したまちづくりイベント	住民・東郷町地域公共交通会議・交通事業者・東郷町・大学	H28~H32 : 企画・実施 (沿線地域の乗り方教室の開催は継続実施)	実施中	東郷町まちの出前講座の一つとして、「じゅんかい君に乗ってみよう」があり、要望に応じじゅんかい君の概要や乗り方について説明。	バスに乗ったことがなく、料金の支払い方や乗降方法が分からない人も多く、そのような人に理解してもらうことで、バスという選択肢を持ってもらうことができた。	—	引き続き、東郷町まちの出前講座の中で希望者を募集。
		① 住民を対象としたMM (バス体験ツアー、乗り方教室、公共交通の情報提供等)	東郷町地域公共交通会議	H28~H32 : 企画・実施	実施中	本町のイベントであるこどもエコぼんぼくでは、公共交通の利用に関する啓発のブースを設置。再編に当たっては町民意見交換会やタウンミーティングを開催し、町民から再編に関する意見を聞いたり、交通に関する新しい技術を紹介したりするなどした。	イベント時に公共交通の利用を啓発することで、より多くの人に公共交通について関心を持っていただくことが可能。町民意見交換会やタウンミーティングでは、じゅんかい君の再編に関する意見をいただき、その内容について反映。	—	引き続き、イベント時に公共交通の利用に関する啓発を実施。
	(7) 交通行動の変化を促進する施策	② 転入世帯を対象としたMM (公共交通の情報提供)	東郷町地域公共交通会議	H28~H32 : 企画・実施	実施中	転入届を提出するために来庁した人にバスマップを配布。	転入者にとって、新たな土地における公共交通の現状を知ってもらうことで利用を促進。	—	引き続き、転入者へのバスマップを配布。
		③ 小学生等を対象としたMM (バスの乗り方教室)	東郷町地域公共交通会議	H28~H32 : 企画・実施	実施中	名鉄バス沿線の小学生等を対象に、名鉄バスと共同で毎年バスの乗り方教室を開催。	バスに乗ったことがなく、料金の支払い方や乗降方法が分からない人も多く、そのような人に理解してもらうことで、バスという選択肢を持ってもらうことができた。 小学生については、運転手という職業に興味を持つこともあり、将来的に公共交通に関する職業に就業することも期待できる。	—	引き続き、バスの乗り方教室を開催。開催に当たっては、動画でのオンライン教室等についても検討。
		④ 通勤者を対象としたMM (公共交通の情報提供)	東郷町地域公共交通会議	H28~H32 : 企画・実施	実施中	ホームページ上において、じゅんかい君のバスマップを掲載するとともに、名鉄バスの路線についても掲載。GTFSによる乗換検索の表示を開始。	ホームページ上でじゅんかい君のバスマップを掲載することで、役場が閉庁している時間帯でも調べることが可能。GTFSによる乗換検索の表示を開始したことで、経路の中にじゅんかい君が表示されるため、利用者にとって他の交通手段と組み合わせることができ、利便性向上につながる。	—	引き続き、ホームページ等で情報提供を実施。
4	評価及び推進体制PDCAサイクルによる実施	各種ニーズ調査の実施・評価・改善・計画見直し	東郷町地域公共交通会議	H28~H32 : 調査実施・評価・改善・計画見直し	実施中	毎年、地域交通確保維持改善に係る事業評価を実施。名鉄バス及びじゅんかい君の利用者数や公共交通における啓発の取組状況等から課題を洗い出し対応方法について検討。	毎年、事業評価を実施することで、事業における取組状況を整理するとともに、現状の課題や今後の方向性について地域公共交通会議で検討することが可能。	—	網計画の最終年度に利用実態調査やアンケート調査を行い、計画を見直す。事業評価については、引き続き実施することで、その時々課題や方向性等について地域公共交通会議で検討。

※セントラル地区及びセントラル地区の商業施設に関わる事業については、その整備状況に合わせるものとしている。

2 目標とする成果指標の達成状況の確認

(1) 地域公共交通網形成計画における成果指標と目標値の達成状況

地域公共交通網形成計画の計画期間である2020年（平成32年・令和2年）を迎えたため、当該計画で位置づけた成果指標について、各公共交通の利用状況や市民・利用者アンケート等より、それぞれの達成状況を整理します。

なお、利用者数の評価は新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛の影響を考慮し、平成31年度（令和元年度）の数値で評価します。

表 各目標の達成状況一覧

路線	策定時現況値	目標値	評価値	達成状況
● 町内バス路線の利用者数（統計データ）				
路線バス	約195万人 (H26)	現状以上 (約211万人 →約216万人)	1,958,731人 (R1)	△ (約214万人)
じゅんかい君	約17万人 (H26)		185,220人 (R1)	
● 月に2～3日程度以上バスを利用する人の割合（町民アンケート）				
路線バス	11% (H26)	現状以上	10.1% (R2)	×
じゅんかい君	8% (H26)		5.6% (R2)	
● 公共交通利用の不満割合（利用者アンケート）				
名鉄バス「東西線」	29% (H26)	現状未満	23.8% (R2)	○
じゅんかい君	19% (H25)		19.3% (R2)	×

(2) 各目標の達成状況

1) 町内バス路線の利用者数

- じゅんかい君、路線バス共に利用者数は増加したが、目標には未到達
- 路線別では、じゅんかい君は全路線が増加、路線バスは豊明団地線が減少傾向

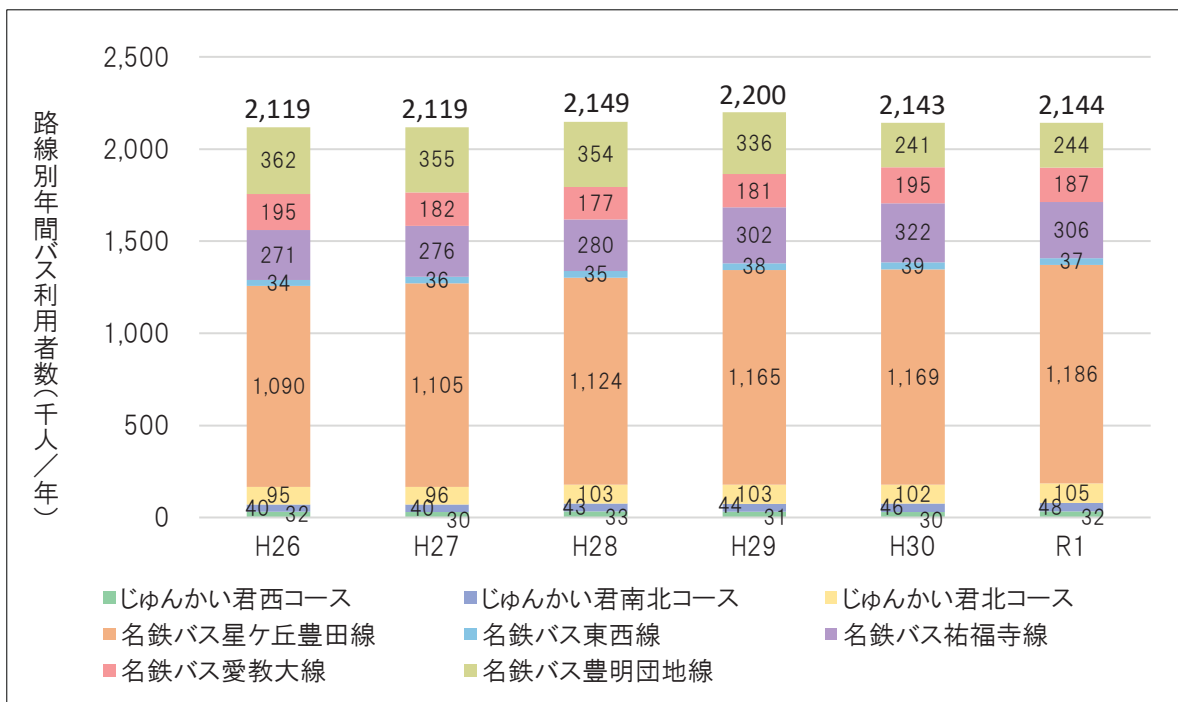
町内を運行するバス路線の利用者数は、策定時の現況値（2,118,527人）より約25,000人増加し、2,143,951人となりました。従って、「現況値以上」という目標は達成しましたが、数値目標である「約216万人」は達成できませんでした。

じゅんかい君、路線バス共に利用者数が増加しましたが、路線別にみると、愛教大線や豊明団地線の利用者が減少していることが分かります。

表 町内バス路線の利用者数の達成状況

路線		策定時現況値 (H26)	目標値	評価値 (R1)	評価
バス利用者計		2,118,527人	現況値以上 (約216万人)	2,143,951人	未達成 (利用者は増加)
じゅんかい君	西コース	31,535人		32,439人	
	南北コース	39,825人		47,907人	
	北コース	95,251人		101,908人	
路線バス	星ヶ丘豊田線	1,089,832人		1,185,606人	
	東西線	34,130人		36,659人	
	祐福寺線	271,302人		305,855人	
	愛教大線	194,948人		186,982人	
	豊明団地線	361,704人		243,629人	

図 町内バス路線の利用者数推移（再掲）



2) 月に2～3日程度以上バスを利用する人の割合

● 路線バス、じゅんかい君共に策定時の現況値よりも数値が減少し、目標未達成

月に2～3日程度以上バスを利用する人の割合は、路線バス、じゅんかい君共に減少し、目標を達成できませんでした。

アンケートでは「この1年間の利用状況」としており、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、外出自粛や生活様式の変化がみられたことが減少の要因の1つとして考えられます。

表 月に2～3日程度以上バスを利用する人の割合の達成状況

	策定時現況値 (H26)	目標値	評価値 (R2)	評価
路線バス	11.3%	現状以上	10.1%	未達成
じゅんかい君	8.1%		5.6%	

図 路線バスの利用頻度（町民アンケート）

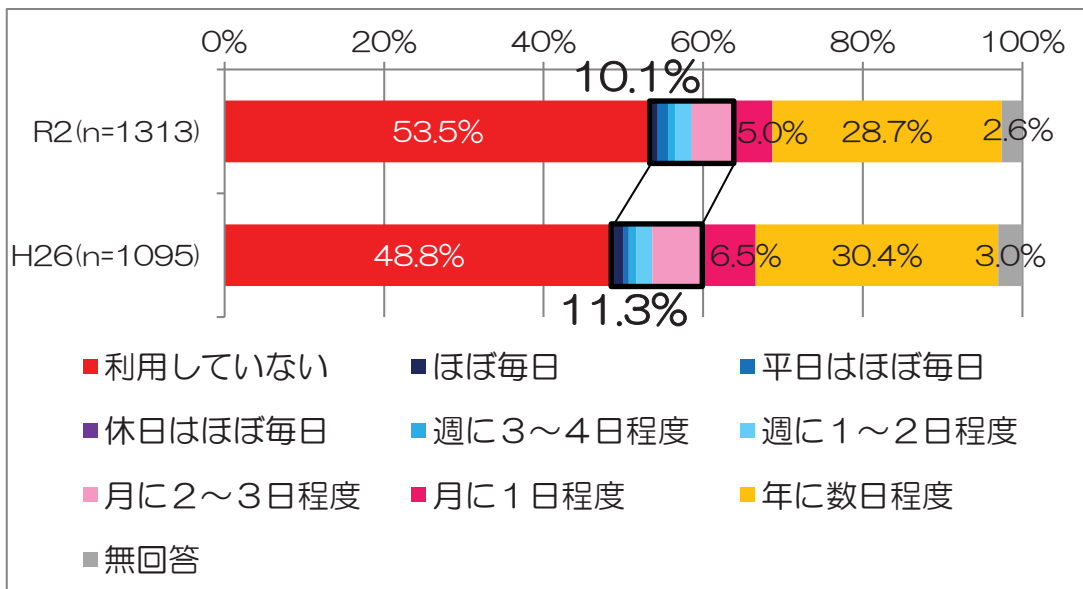
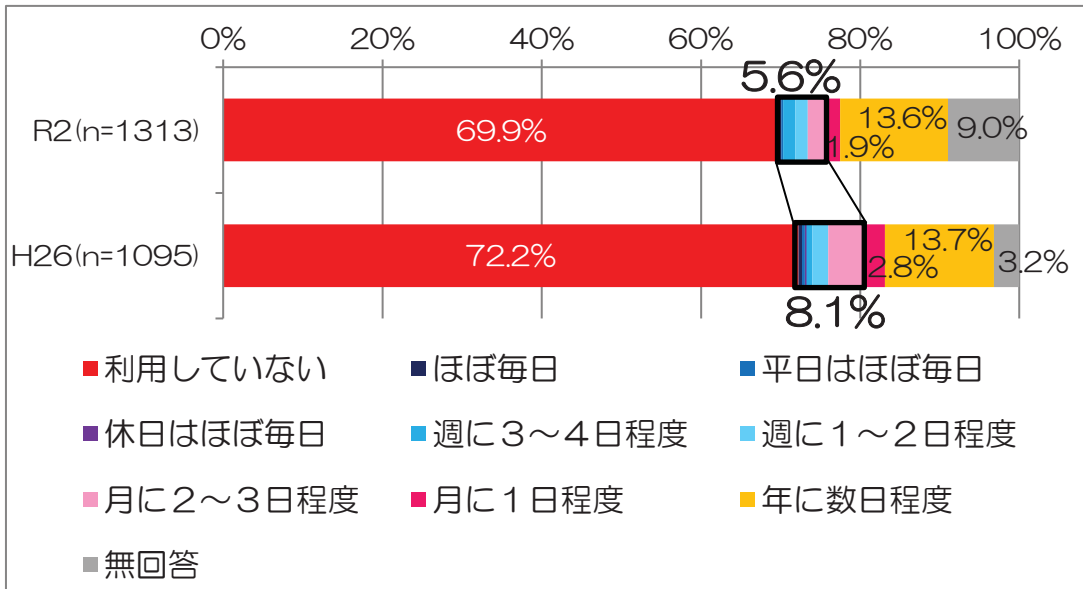


図 じゅんかい君の利用頻度（町民アンケート）



3) 公共交通利用の不満割合

- 名鉄バス「東西線」の不満割合は減少し、目標達成
- じゅんかい君の不満割合は横ばいとなり、目標未達成

公共交通利用の不満割合は、名鉄バス「東西線」で約 15 ポイント減少し、目標を達成しました。一方、じゅんかい君は横ばいとなり、「現状未満」とする目標値を達成できませんでした。

しかし、じゅんかい君の満足度（満足+やや満足）では、策定時から約 17 ポイント増加しているほか、「不満」は約 1 ポイント減少しています。

表 公共交通利用の不満割合の達成状況

	策定時現況値 (H26)	目標値	評価値 (R2)	評価
名鉄バス「東西線」	39.1%	現状未満	23.8%	達成
じゅんかい君	19.3%		19.3%	未達成

図 名鉄バス「東西線」の総合的な満足度（町民アンケート）

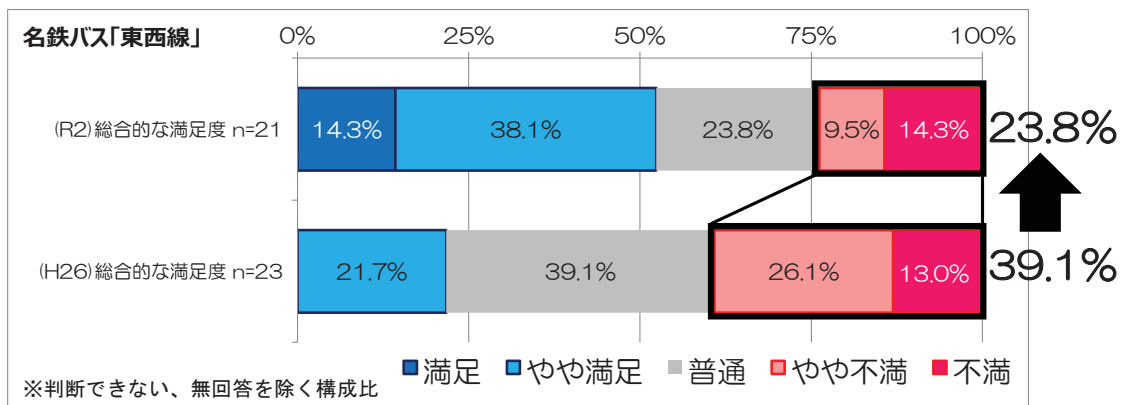
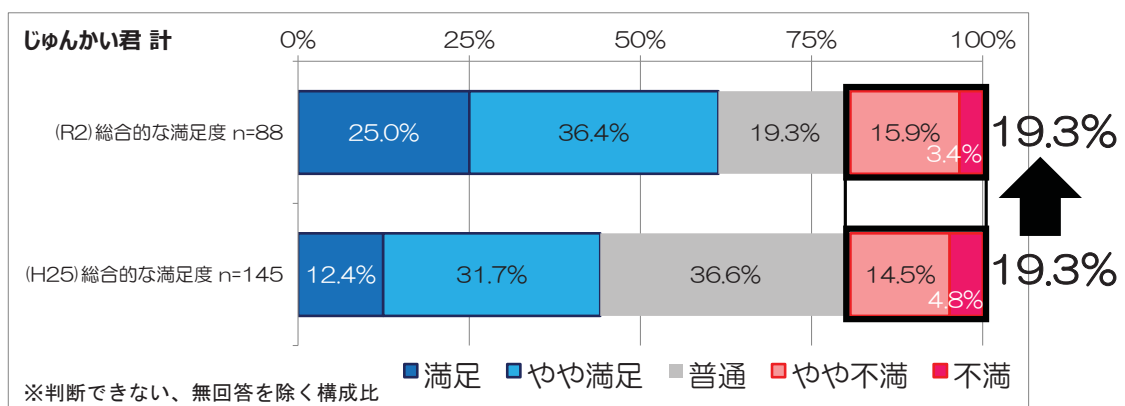


図 じゅんかい君の総合的な満足度（町民アンケート）



IV 東郷町における地域公共交通の課題

東郷町の現状、公共交通サービスの状況や利用実態、各種ニーズ調査結果、集客施設調査及び現行の網形成計画の達成度評価について、各調査項目から見える個別課題等を抽出した後、公共交通を取り巻く社会情勢の変化や東郷町の上位計画（東郷町が目指す将来都市像）の視点を加味した上で、東郷町における地域公共交通の課題（集約課題）を整理します。また、個別課題から構成する集約課題の整理を次頁以降に整理します。

調査項目	個別課題等	地域公共交通の課題との対応番号			
		①	②	③	④
(1) 東郷町の現状	1 町の北部及び西部で人口密度の高い地域があるなかで、東郷セントラル地区開発による新規居住者が見込まれている	●		●	
	2 運行本数の多いバス路線が走る西部及び鉄道駅に近い北部では自動車の分担率が減少	●	●		
	3 セントラル開発で大型商業施設の開業とともにバスターミナルを整備	●	●	●	
(2) 公共交通サービスの状況	4 東郷町内には鉄道駅を有していないため、周辺市の鉄道駅へのアクセス利便性が求められている		●		
	5 運行本数の多い名鉄バスが町内の基幹的な路線として機能している		●		
	6 公共交通による町内の人口カバー率は86.4%を有し、人口密度の高い北部・西部地区は利用圏域に内包			●	
	7 じゅんかい君の利用者数は増加傾向にある一方、運行経費も増加傾向にあるが、周辺市と比較して利用者1人当たりの運行経費は低い				●
(3) 公共交通の利用実態	8 町内を走るバスの利用者数は、名鉄バスは横ばい、じゅんかい君は微増で推移	●			●
	9 名鉄バスの利用者の居住地は、「東郷町」が平日で23.9%、休日で17.7%となっている。祐福寺線や東西線では東郷町居住者割合が高く、星ヶ丘豊田線や愛教大線では東郷町居住者割合は低い		●		
	10 じゅんかい君の利用者の居住地は、「東郷町」が平日で83.8%、休日で68.5%となっている。西コースや南北コースでは東郷町居住者割合が高く、北コースでは東郷町居住者割合が低い		●	●	
	11 バス乗車前後の乗り継ぎは、名鉄バスは「鉄道」との乗り継ぎが多く、じゅんかい君は「乗り継ぎしない」が多い	●	●		
(4) 公共交通に関する町民意向	12 公共交通を利用する際に時刻や経路を調べる手段として、「鉄道やバスの情報が集約されたWebサイトやアプリ」が45.0%で最も利用されているが、「紙の路線図・時刻表」も25.7%利用されている			●	
	13 じゅんかい君が果たすべき役割は、「車を運転できない人にとっての移動手段」が最も高く、次いで「役場やいこまい館などの公共施設へ行くための交通手段」「いつでもバスを利用できるという安心感を与える役割」の順となっている	●		●	●
	14 名鉄バスが果たすべき役割は、「車を運転できない人にとっての移動手段」が最も高く、次いで「通勤や通学などの日常の移動手段」、「隣接市への移動を容易にする役割」の順となっている		●	●	●
	15 藤田医科大学病院への新規路線の利用意向は、「通院目的で利用する」が73.2%と高いものの、「年に数回程度」以上の利用頻度は24.2%に留まっている	●		●	
	16 バス停まで一人で歩ける距離は「300m以上」が85.3%を占める			●	
	17 じゅんかい君の運行経費の負担について、「現状程度の負担でよい」が41.7%と主体を占め、次いで「利用者の負担額を増やす（無料対象者の見直しや運賃の値上げをする）ことで、町の負担額を減らすべき」が28.6%となっている				●
	18 運賃の値上げとして許容できる金額は、1乗車平均193.9円（現在100円）、65歳以上は平均115.6円（現在無料）となっている				●
(5) バス利用者意向	19 バス利用者のうち「自由に使える車がある」人の割合は12.2%となっている			●	●
	20 じゅんかい君のサービス項目別の満足度は、「バスの運賃」で満足度（満足+やや満足）が85.1%と高い一方、「バスの便数・運行間隔」では不満割合（不満+やや不満）が61.1%と過半を占める			●	●
	21 名鉄バス東西線のサービス項目別の満足度は、「降車バス停から目的地・施設までの距離」で満足度が70.8%と高い一方、じゅんかい君と同様に「バスの便数・運行間隔」では不満割合が68.0%と過半を占める		●		●
(6) 集客施設来訪者	22 ららぼーと愛知東郷利用者の居住地は、「名古屋市」が19.9%と最も多く、次いで「豊田市」が11.3%の順となっており、東郷町外居住者の利用割合は約9割を占める	●	●		
	23 利用可能となる条件が改善した場合の公共交通の利用意向は、「利用する」と「多分利用する」を合わせると37.7%を占める			●	●
(7) 地域公共交通網形成計画の評価	24 計画目標「町内バス路線の利用者数」について、町内バス路線全体の利用者は約214万人と現況値の約211万人から約3万人増加したが、目標値の約216万人には達しなかった	●	●	●	●
	25 計画目標「月に2~3日程度以上バスを利用する人の割合」について、路線バス・じゅんかい君ともに現況値から減少しており、目標値に達していない	●			●
	26 計画目標「公共交通利用の不満割合」について、名鉄バス東西線は目標値を達成したが、じゅんかい君は目標値に達していない			●	●

<公共交通を取り巻く社会情勢の変化と東郷町の上位関連計画>

- ・全国的に免許返納者が増加しており、免許返納後の移動手段の確保が求められている
- ・公共交通分野においても、AIやIoT等の先進技術の活用が期待されている
- ・公共交通の運行を担う運転手不足問題が深刻化している
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「新しい生活様式」の実践が求められている
- ・都市機能が集約したまちづくりの実現に向け、路線バス、巡回バス、タクシー及び新たなモビリティ（デマンド型交通等）が相互に連携した効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成を目指している
- ・高齢化の進展や町民ニーズを踏まえて、公共交通基盤の機能強化、誰もが利用しやすい公共交通の利用環境の構築を目指している

<地域公共交通の集約課題>

- ① 東郷セントラル地区を活かすまちづくりを支援する公共交通ネットワークの形成**
 - ・バスターミナルの活用、利便性の高い公共交通ネットワークへの再編 等
- ② 周辺市との交流に対応する広域的な移動手段の確保**
 - ・鉄道駅へのアクセス、路線バス機能の確保、周辺市コミュニティバスとの連携 等
- ③ 高齢化の進展や社会情勢の変化に伴う多様なニーズへの対応**
 - ・鉄道、バス、タクシー及び新たなモビリティ（デマンド型交通等）相互の連携 等
- ④ 安心して利用できる地域公共交通の確保に向けた取組の展開**
 - ・新型コロナウイルスで減少した利用者等の回復、交通と福祉が連携した施策展開 等

課題① 東郷セントラル地区を活かすまちづくりを支援する公共交通ネットワークの形成

東郷町の人口分布は、北部及び西部の住宅団地で人口密度の高い地域を有するとともに、東郷セントラル地区において新たな住宅供給が進んでおり、今後は町中心部において人口の増加が予想されます。第6次東郷町総合計画や東郷町都市計画マスタープランにおいても、都市拠点や地域生活拠点を中心に、都市機能が集約したコンパクトな都市構造の形成を図る方向性を示しており、また立地適正化計画では、東郷セントラル地区開発により令和2年9月に完成したバスターミナルを活用した、公共交通ネットワークの再編がうたわれています。

東郷セントラル地区のバスターミナルでは、バス相互の乗り継ぎに限らず、タクシーの乗降場を兼ね備えているため、町内の公共交通の乗継拠点としての役割を発揮することが求められます。

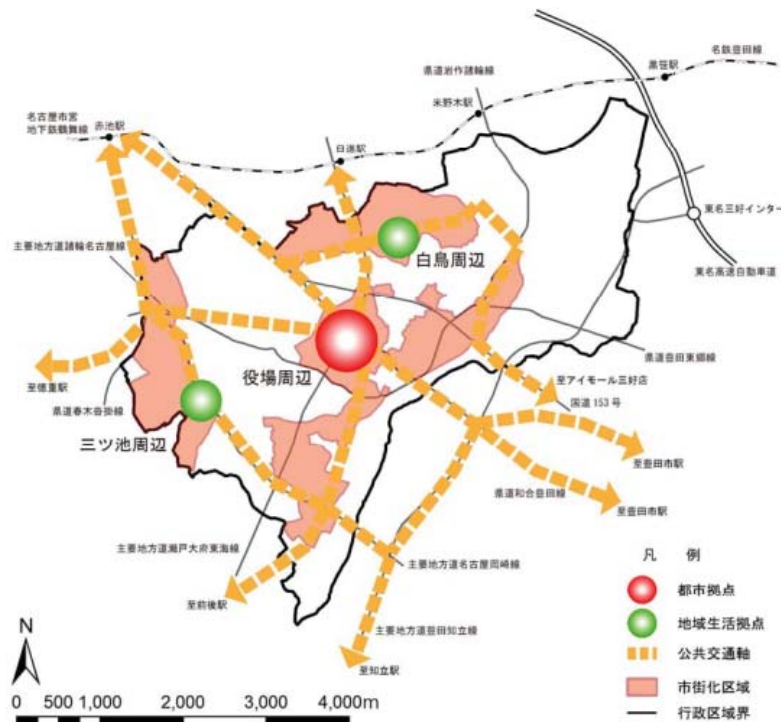
東郷セントラル地区を活かした東郷町の魅力を高めるまちづくりを支援する公共交通ネットワークの形成が必要といえます。

図 将来のイメージ



(資料：東郷セントラル地区町民説明会資料)

図 目指すべき都市の骨格構造 (再掲)



(資料：東郷町立地適正化計画)

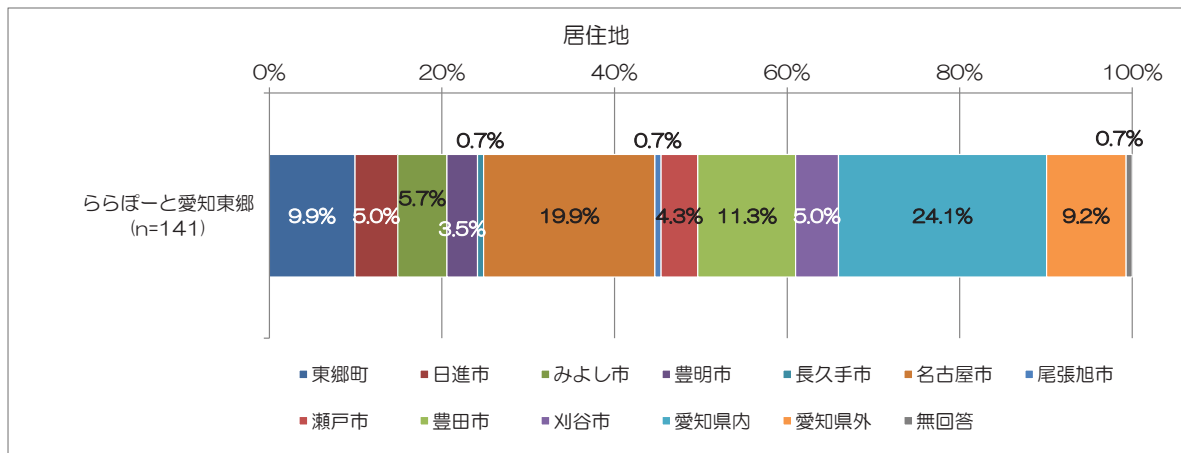
課題② 周辺市との連携・交流に対応する広域的な移動手手段の確保

東郷セントラル地区に開業した商業施設（ららぽーと愛知東郷）は、東郷町内や尾三地区のみならず、より広域的な集客が確認されており、東郷町を目的地とする移動に対しての広域的な移動手手段を確保することが重要です。

一方で周辺市においても、大型商業施設（みよし市：アイモール三好、日進市：プライムツリー赤池、長久手市：イオンモール長久手 等）の立地が見られることに加えて、町内には大規模な医療施設が立地しておらず、町内から周辺市（豊明市：藤田医科大学病院、日進市：日進おりど病院、名古屋市：名古屋記念病院 等）へのアクセス機能の確保が求められています。

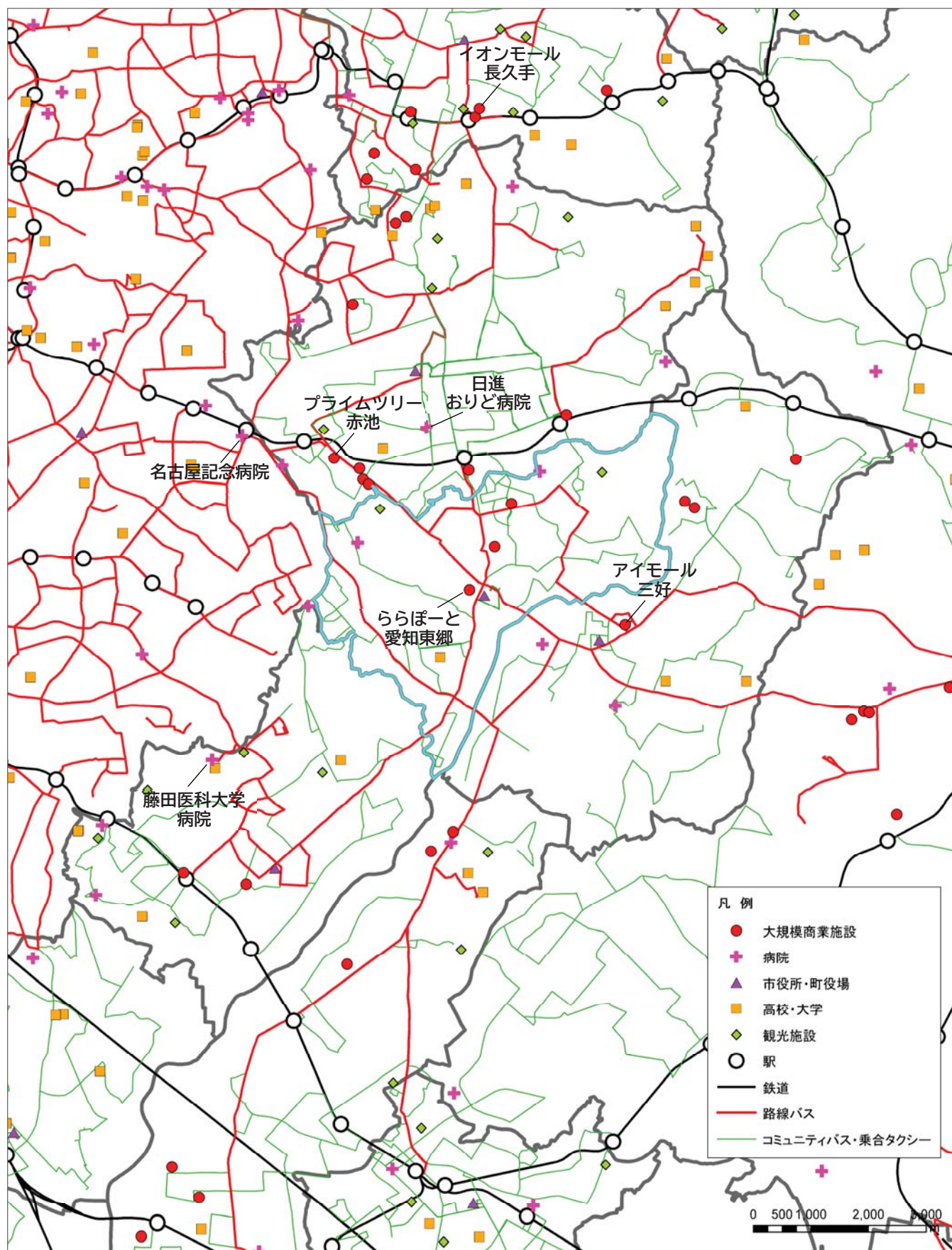
町内に鉄道駅を有しない東郷町にあっては、周辺市と連絡する路線バスを中心に、鉄道駅をアクセスするじゅんかい君及びタクシーや周辺市のコミュニティバスとの連携により、日常生活における移動需要に対応しつつ、周辺市との連携・交流の強化に資する多様な移動手手段の確保が必要といえます。

図 ららぽーと愛知東郷来店者の居住地（再掲）



(資料：集客施設調査)

図 周辺地域の医療・商業施設立地状況（再掲）



課題③ 高齢化の進展や社会情勢の変化に伴う多様なニーズへの対応

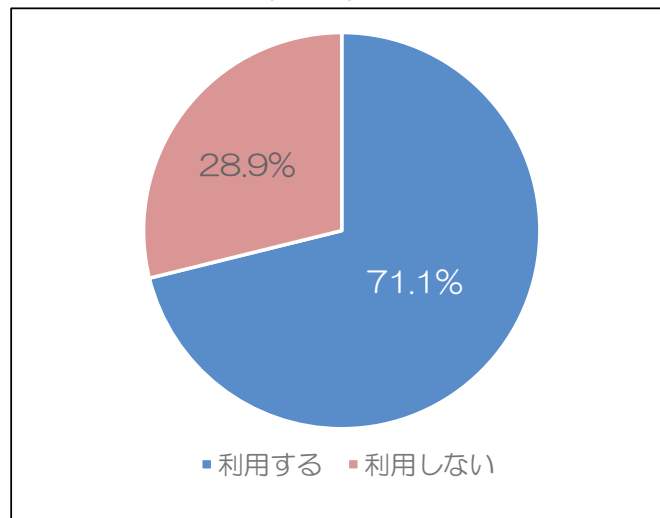
東郷町では 65 歳以上の高齢者人口は増加し続け、高齢化が進展する一方、東郷セントラル地区の開発に伴い、子育て世代をはじめとした転入者の増加が見込まれることから、自由目的（買物や通院等）による移動需要の増加が見込まれます。既存公共交通による町内人口のカバー率は 86.4%と比較的高い値を示していますが、高齢化の進展や子育て世代の増加に伴う移動ニーズの変化により、既存の公共交通ではカバーしきれない（既設バス停まで歩けないなど）移動ニーズも見込まれます。

また、高齢化が進展する中で、運転免許証の返納者が増加することも予想されるため、「最初の一步」の移動手段を確保することが重要になります。

さらに、各種公共交通が連携して運行されていたとしても、その情報が利用したい人に届かなければ利用することが出来ません。現状では、公共交通を利用する際に 7 割以上の人々が Web サイトや経路検索アプリを利用しており、今後、このような公共交通の情報を検索する人の割合は、増加することが見込まれます。

これら高齢化の進展や社会情勢の変化に伴う多様な移動ニーズに対応するためには、東郷町で運行される既存公共交通（路線バス・じゅんかい君・タクシー）がそれぞれで対応するのではなく、既存公共交通に開発が進む新たなモビリティ（デマンド型交通等）を含め、公共交通手段が相互に連携することで各路線が果たすべき役割を発揮する必要があります。

図 公共交通の運行情報の検索に Web サイトやアプリを利用



（資料：町民アンケート）

図 実証実験中の自動運転バス



図 東郷町で実証実験を実施したデマンド型乗合タクシー



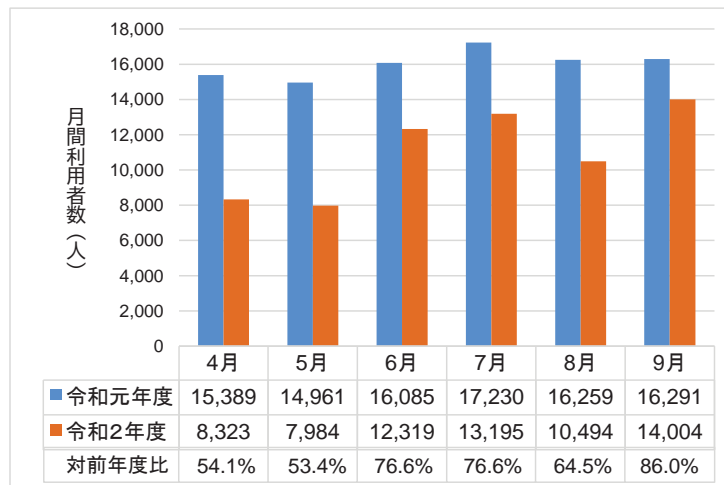
課題④ 安心して利用できる地域公共交通の確保に向けた取組の展開

新型コロナウイルス感染症の防止対策による外出自粛の影響により、全国的に公共交通の利用者数が減少しています。東郷町においても、じゅんかい君の利用者が前年比 53.4%（令和 2 年 5 月）になるなど、公共交通の維持に関わる事態となっています。その後、令和 2 年 5 月をピークに回復基調となっていますが、前年水準にまでは至っておらず、更なる利用回復に向けては、公共交通における新型コロナウイルス感染症対策を十分にとり、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備する必要があります。

また、じゅんかい君の役割として市民アンケートでは「いつでも乗れるという安心感を与える役割」が強く求められており、これからもじゅんかい君の運行を確保・維持していくことは、非常に重要なことといえます。

一方で、じゅんかい君の運行経費は増加傾向にあり、限られた財源の中で運行を続けていかなければなりません。じゅんかい君の利用者一人当たりの運行経費は、周辺市と比較して低い水準となっていますが、運行経費の増大、利用者の減少により、東郷町の負担額が大きく増加することが予想されます。こうした状況は民間企業が経営する公共交通（路線バスやタクシー）についても当てはまり、人口減少、需要の減少に加えて、新型コロナウイルス感染症などの影響で経営基盤はますます厳しくなる現状に対して、民間企業が経営する公共交通の安定的、かつ継続的な運行維持を確保するため、交通と福祉が連携する視点を含めて各公共交通が果たすべき役割を明確化した上で、東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、安心して利用できる地域公共交通の確保に向けた取組を展開する必要があります。

図 じゅんかい君利用者数（令和元年度前期・令和 2 年度前期）



（資料：未来プロジェクト課）

図 コミュニティバス利用状況等の周辺市比較（令和元年度）（再掲）

	運行経費（千円）	年間利用者数（人）	利用者一人当たり 運行経費（円/人）
東郷町	71,303	184,684	386
長久手市	147,420	254,653	579
日進市	162,066	323,614	501
みよし市	120,934	282,068	429
豊明市	75,936	167,459	453

（資料：愛知県交通対策課）

V 基本的な方針と目標

1 東郷町の交通将来像

東郷町都市計画マスタープラン（令和3年3月策定予定）では、東郷セントラル地区を中心とした賑わいと多様な交流のある都市拠点、日常的な生活利便施設が充実した地域生活拠点を形成し、これら拠点相互や后背の住宅地等を公共交通で連絡するコンパクト+ネットワークのまちづくりを進め、誰もが住みたい・住み続けたいまちの実現を目指しています。

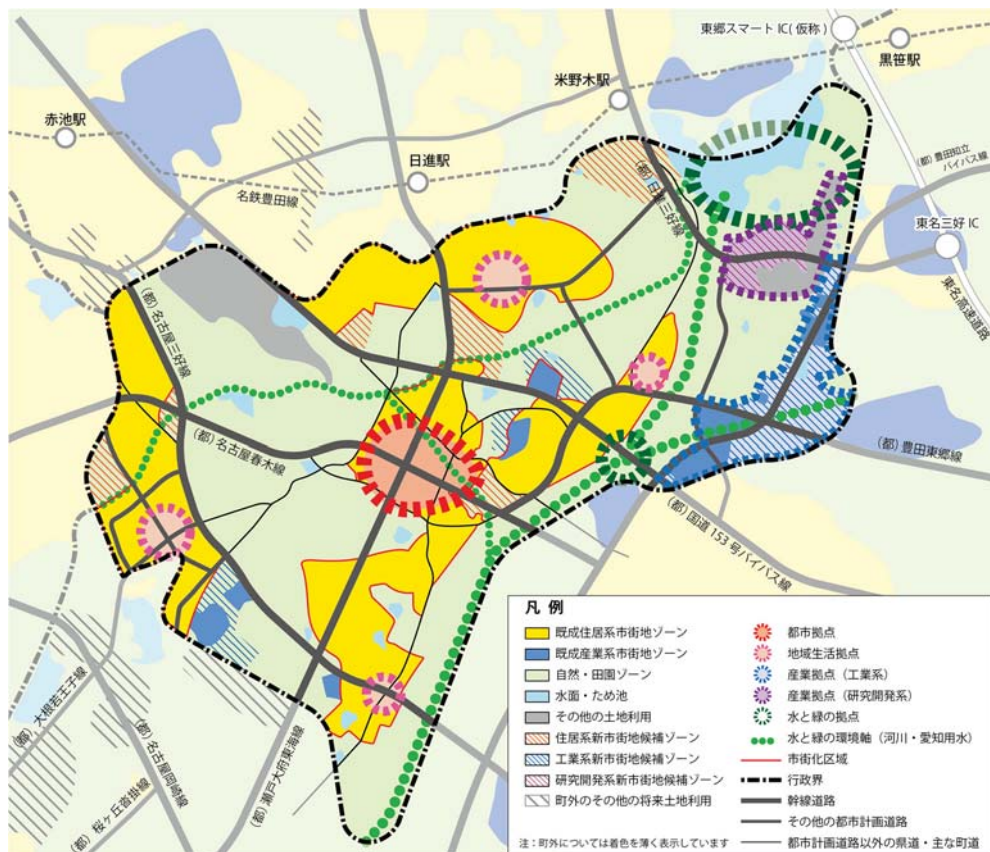
このような中、東郷セントラル地区では、町役場、イーストプラザいこまい館、町民会館、総合体育館といった既存の公共施設に加え、大規模商業施設やバスターミナルの整備により、広域的な交流と交通の機能を有する魅力あふれる都市拠点の形成を進めています。

これらより、公共交通がまちづくりの実現を支援・誘導するとともに、町民が安心して暮らし、住み続ける上で必要不可欠な都市インフラの1つとして機能・利用されることを期待し、交通将来像は「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」と定めます。

そして、交通将来像の実現に向けては、東郷セントラル地区へのアクセス利便性の確保（まちづくりとの連携）、尾三地区等の広域的な公共交通ネットワークの形成（周辺都市との連携）、名鉄豊田線・名古屋市営地下鉄鶴舞線、名鉄バス、じゅんかい君、タクシー等の連携（多様な公共交通・関係者との連携）を図ることで、東郷町における地域公共交通の活性化及び再生を推進します。

交通 将来像

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」



2 地域公共交通の基本方針

東郷町における地域公共交通の課題および交通将来像を踏まえ、以下に地域公共交通の基本方針を示します。

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」 の実現に向けて

基本方針1 町内各地域及び尾三地区等の広域的な連携・交流を強化します。

目標 1-1：東郷セントラル地区を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークを形成します。

目標 1-2：東郷セントラル地区のバスターミナルを活用し、公共交通相互の連携を強化します。

基本方針2 多様な公共交通手段より、地域に適した移動サービスを確保・導入します。

目標 2-1：既存の公共交通に新たなモビリティ（デマンド型交通等）を加えた多様な公共交通手段を提供します。

基本方針3 東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が交通と福祉の視点で連携・協働し、公共交通を支え育む取組を展開します。

目標 3-1：交通と福祉の視点で全ての関係者が連携・協働した取組を展開します。

目標 3-2：公共交通を安心して利用できる対策の実施と情報を提供します。

<地域公共交通の集約課題>

課題① 東郷セントラル地区を活かすまちづくりを支援する公共交通ネットワークの形成

課題② 周辺市との連携・交流に対応する広域的な移動手段の確保

課題③ 高齢化の進展や社会情勢の変化に伴う多様なニーズへの対応

課題④ 安心して利用できる地域公共交通の確保に向けた取組の展開

<地域公共交通の基本方針と目標>

基本方針1 町内各地域および尾三地区等の広域的な連携・交流を強化します。

目標 1-1：東郷セントラル地区を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークを形成します。

目標 1-2：東郷セントラル地区のバスターミナルを活用し、公共交通相互の連携を強化します。

基本方針2 多様な公共交通手段より、地域に適した移動サービスを確保・導入します。

目標 2-1：既存の公共交通に新たなモビリティ（デマンド型交通等）を加えた多様な公共交通手段を提供します。

基本方針3 東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が交通と福祉の視点で連携・協働し、公共交通を支え育む取組を展開します。

目標 3-1：交通と福祉の視点で全ての関係者が連携・協働した取組を展開します。

目標 3-2：公共交通を安心して利用できる対策の実施と情報を提供します。

基本方針1 町内各地域及び尾三地区等の広域的な連携・交流を強化します。

東郷町の将来都市構造は、多様な都市機能が集約された東郷セントラル地区を都市拠点、日常的な生活利便施設が充実した地域生活拠点の形成を目指しています。また、東郷セントラル地区では、バスターミナルが整備され、交通結節点としての機能充実が図られます。

東郷町を含む尾三地区は、大学、総合病院、文化交流施設や大規模商業施設といった広域的なサービス圏域を有する施設が多く立地しており、令和2年9月14日にオープンしたららぼーと愛知東郷の集客施設調査では、来場者の約9割が東郷町外からの利用となっています。しかし、尾三地区の広域的な公共交通ネットワークの形成状況を見ると、リニモ、名鉄豊田線、名鉄名古屋本線等の鉄道は、名古屋市と豊田市・岡崎市等を結ぶ東西方向の交通需要に対応しており、尾三地区等の各都市を連絡する南北方向の交通需要に対応した路線は路線バスや各市町のコミュニティバスがその機能を担っており、有機的なネットワークが形成されているとは言い難い状況にあります。

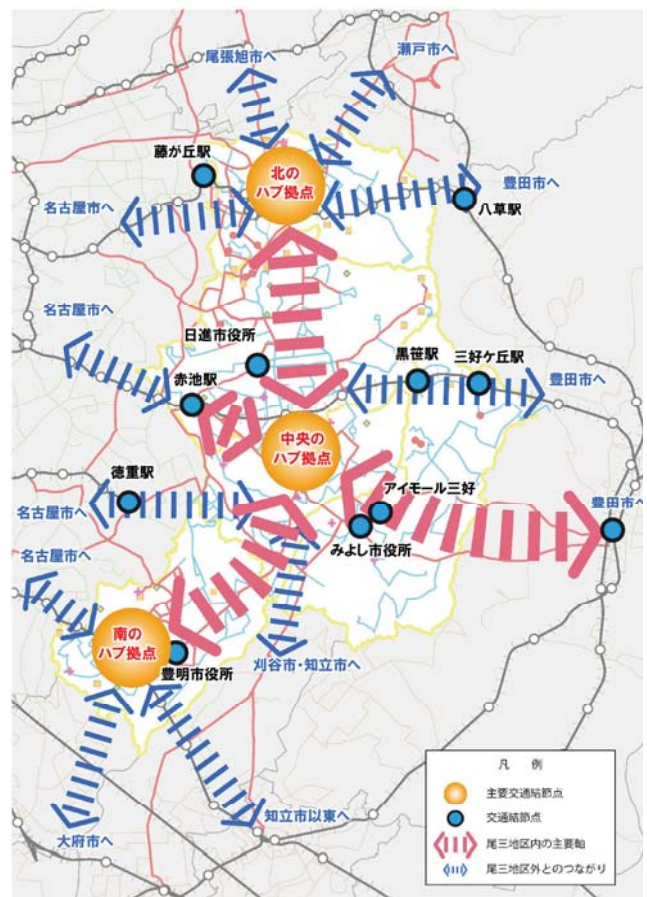
目標 1-1：東郷セントラル地区を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークを形成します。

賑わいと交流に満ちたまちづくり計画と交通計画が一体となった東郷セントラル地区を中心とし、各地域生活拠点および後背の住宅地等を連絡する利便性の高い公共交通ネットワークを形成し、町内各地域との交流・連携を強化します。

目標 1-2：東郷セントラル地区のバスターミナルを活用し、公共交通相互の連携を強化します。

尾三地区等の広域的な交通需要への対応にあたっては、東郷セントラル地区におけるバスターミナルや主要な鉄道駅等をハブ拠点とし、路線バスによる東西・南北の公共交通軸を形成するとともに、各市町のコミュニティバスやデマンド型交通（チョイソコとよあけ、みよし市乗合タクシー等）が機能補完することで尾三地区における広域的な連携・交流を強化します。

図 広域公共交通ネットワークの形成イメージ
(尾三地区広域公共交通推進基礎調査事業より)



その結果、町内各地域および尾三地区等の広域から東郷セントラル地区に行きやすい公共交通サービスが提供され、公共交通の利用増進に加え、東郷町の魅力向上や過度な自家用車利用からの脱却が期待されます。

基本方針2 多様な公共交通手段より、地域に適した移動サービスを確保・導入します。

2015年現在、東郷町の人口は42,858人、65歳以上の高齢化率は22.2%となっています。概ね10年後の2030年では、人口45,690人、高齢化率23.6%と予測されており、緩やかな人口増加が継続する中、高齢化が進行しています。また、セントラル開発の住宅開発に伴い、子育て世代の増加も予想されています。

町民アンケートでは、名鉄バス及びじゅんかい君ともに「車を運転できない人にとっての移動手段」や「いつでもバスを利用できる安心感」といった存在価値に加え、名鉄バスでは「通勤や通学などの日常的な移動手段」や「隣接市への移動を容易にする役割」、じゅんかい君では「役場やいこまい館などの公共施設へ行くための移動手段」や「通院や買物などの日常の移動手段」としての役割の重要度が高い結果が得られています。

公共交通を取り巻く法制度や社会情勢は変化しており、令和2年の活性化再生法の改正では、輸送資源の総動員による移動手段の確保や既存の公共交通サービスの改善の徹底などが示されるとともに、地方公共団体による地域公共交通計画（マスタープラン）の作成が努力義務化されました。また、地域の移動ニーズにきめ細かく対応できるメニューの充実として、AIやICT等の情報通信技術を活用した新たなモビリティ（デマンド型交通等）による利用者目線での路線改善やMaaS（出発地から目的地までの移動検索や観光・飲食・商業等のサービスを組み合わせ、スマートフォンのアプリ等で予約・決済ができるサービス）の円滑な普及促進が示されています。

図 名鉄バスが果たすべき役割の重要度 (R2利用者アンケートより)

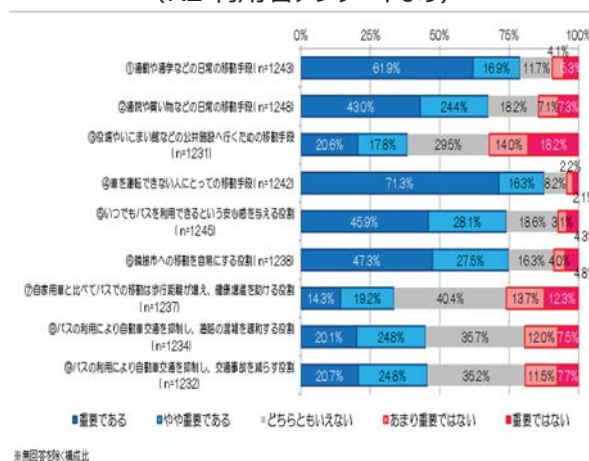
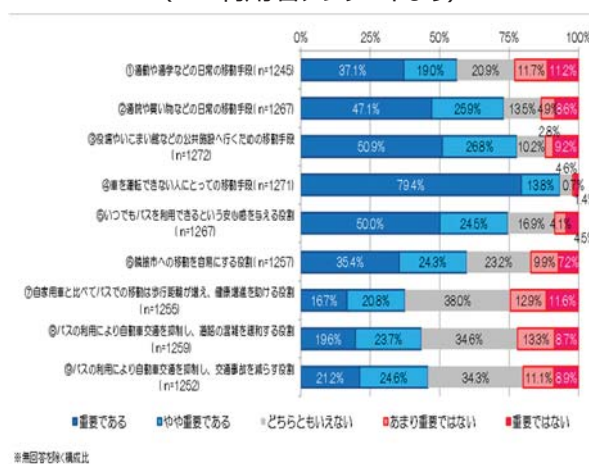


図 じゅんかい君が果たすべき役割の重要度 (R2利用者アンケートより)



目標 2-1：既存の公共交通に新たなモビリティ（デマンド型交通）を加えた多様な公共交通手段を提供します。

隣接する日進市を經由する名鉄豊田線、東郷町内を運行する名鉄バス・じゅんかい君、タクシー及び新たなモビリティ（デマンド型交通等）を加えた多様な公共交通手段を提供し、地域の特性や移動ニーズに対応した適切な移動サービスを確保・導入します。



その結果、多様な公共交通サービスが提供され、公共交通の利用割合・利用機会の増加や利用者の満足度の向上が期待されます。

基本方針3 東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が交通と福祉の視点で連携・協働し、公共交通を支え育む取組を展開します。

東郷町内を運行する名鉄バス（星ヶ丘豊田線、東西線、祐福寺線、愛教大線および豊明団地線）とじゅんかい君（西・南北・北コース）の利用者総数は、年間2,100～2,200千人（東郷町外利用者数を含む）で横ばい傾向にあります。

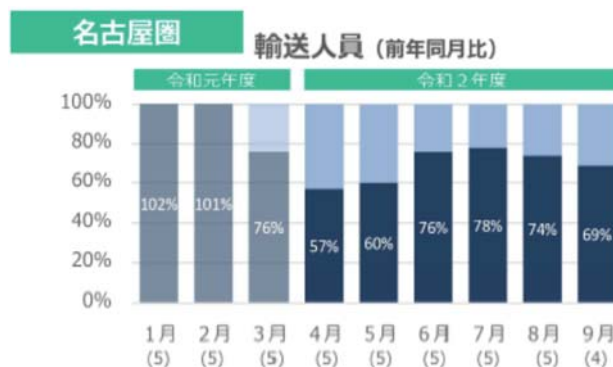
しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛等により、公共交通利用者数は大きく減少しています。

名古屋圏の乗合バス（高速バスを含む）の利用者数（運送収入）は、令和2年4～5月に対前年比約60%（約40%）まで減少し、その後8～9月には対前年比約70%（約60%）まで回復する傾向にありますが、利用者及び収入の回復は伸び悩んでおり、非常に厳しい状況にあります。

このような中、政府からは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る「新しい生活様式」が提唱され、公共交通の利用は自転車・徒歩との併用などが浸透して利用者は減少しています。しかし、日常生活を送るための移動には公共交通は必要不可欠なものであり、地域の公共交通サービスを確保・維持するためには、「新しい生活様式」を背景とした公共交通の恒常的な利用者減少を踏まえた民間交通事業者の経営を安定的なものとするためには、「交通」と「福祉」が連携した上で、乗合交通の新たな需要の掘り起こしや各種利用促進施策の展開、更には、乗合交通が利用できない障害者や高齢者などの移動を支える施策が必要となります。

新型コロナウイルス感染症対策として、交通事業者は車内換気を始め、運転手のマスク着用、座席等の定期的な清掃・消毒、利用者の会話の自粛やピーク時混雑の緩和など、各種取組や願いを実践していますが、コロナ禍におけるマスク着用等の適切な公共交通の利用方法が十分に認識されていないため、安心して公共交通を利用することができる適切な広報啓発の取組が必要です。

図 中部地区交通事業者のR2 上半期輸送人員（中部運輸局プレスリリースより）



目標 3-1：交通と福祉の視点で全ての関係者が連携・協働した取組を展開します。

公共交通の利用回復に向けては、国の制度活用を始め、東郷町、交通事業者、町民等の地域公共交通に関わる全ての関係者が交通と福祉の視点で連携・協働して、適正な時期と方法で利用促進施策を展開するなど、公共交通の存続、安定した運行継続を図ることを基本に各種取組を展開します。

目標 3-2：公共交通を安心して利用できる対策の実施と情報を提供します。

コロナ禍における公共交通利用の感染リスクや感染防止対策等を確実に実施することで、公共交通を安心して利用できる環境を整備します。また、これら実施する対策等について、町民や公共交通利用者へ周知・徹底するとともに、利用者はこれら情報を正しく理解する必要があります。



その結果、東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働した取組が実践され、公共交通利用者の回復や公共交通サービスの確保・維持、公共交通の安定的な運営などが期待されます。

3 計画の目標

交通将来像である「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」の実現を本計画の全体目標として掲げ、この目標の達成状況を検証するための成果指標を3つ設定します。

全体目標

公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち

指標 1-1 公共交通全体の利用者数(目標 1-1 に対応)

指標 1-2 バスターミナル(拠点)の利用者数(目標 1-2 に対応)

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」の実現において、普段の生活の中で公共交通を利用できることが重要であり、公共交通が暮らしとともにある状態を把握するために指標 1-1、1-2 を設定します。

指標 2-1 じゅんかい君の満足度(目標 2-1 に対応)

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」の実現によって、利用者の公共交通に対する満足度が向上し、不満割合は低減すると考えられるため、じゅんかい君利用者の不満割合を指標 2-1 として設定します。

指標 3-1 庁内他部署や複数の実施主体が
連携・協働した取組の件数(目標 3-1・3-2 に対応)

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」の実現において、安心して住み続けるためには、暮らしを支える公共交通を維持していく必要があり、東郷町の地域公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働した、公共交通の維持に対する取組の実践が重要であるため、取組の件数を指標 3-1 として設定します。

公共交通全体の利用者数

目標値(R8)	現況値(R2)
路線全体で R1 年度 利用者数の維持 (約 214 万人)	1,729,044 人

表 路線別の現況値

路線		目標値[R8]	現況値[R2]	
幹線バス	名鉄バス 星ヶ丘豊田線	<努力目標> 路線全体で R1 年度 利用者数の維持 (約 214 万人)	995,368 人	
	名鉄バス 祐福寺線		233,903 人	
	名鉄バス 愛教大線		132,521 人	
	名鉄バス 豊明団地線		198,512 人	
	(仮称)ららぽーと徳重線		—	
準幹線バス	名鉄バス 東西線		<必達目標> じゅんかい君の 年間利用者数 139,474 人 ↓ 150,000 人	29,267 人
	東郷・藤田医大バス			—
支線バス	じゅんかい君 南西コース			22,115 人
	じゅんかい君 北コース			84,522 人
	じゅんかい君 東コース			32,836 人
輸送別	タクシー			

- * 名鉄バス路線の現況値はバス年度（2019年10月～2020年9月）での路線全体の年間の利用者数
- * 名鉄バス愛教大線は和合経由の系統利用者数
- * 名鉄バス豊明団地線は徳重経由の系統利用者数
- * じゅんかい君の現況値は、2020年12月の対前年度比（西コース75.0%、南北コース72.5%、北コース85.8%）を2020年1～3月の各コースの実績にそれぞれ乗じることで推計した数値を、2020年4～12月の実績に加えた会計年度（2020年4月～2021年3月）での路線全体の年間の利用者数
- * じゅんかい君は路線再編を行うため、現況値は再編前の路線の利用者数（南西コース→旧西コース、北コース→旧北コース、東コース→旧南北コース）
- * 必達目標は令和元年度のじゅんかい君の運行経費（71,303千円）を維持（75,000千円）した場合に、利用者1人当たりの運行経費が500円以下となる人数を設定
 （参考）令和2年4月～9月の利用者数（66,319人）の対前年比は68.9%
 （令和元年4月～9月の利用者数（96,215人））

指標 1-2

都市拠点内のバス停利用者数

目標値(R8)	現況値(R2)
1,200 人/日	1,015 人/日

*目標値は「和合西口」、「和合」、「いこまい館」、「バスターミナル」の4ヶ所計

表 現況値の算出根拠

路線名	経由	終点	バス停						
			和合西口			名鉄バス:和合 じゅんかい君:いこまい館			
			平日実数	休日実数	推計値	平日実数	休日実数	推計値	
名鉄バス	星ヶ丘豊田線	新屋	赤池駅	68	66	190	15	7	34
		豊田市	51	84	171	22	12	47	
	衣ヶ原	赤池駅	23	80	135	10	7	27	
		豊田市	65	96	224	15	15	44	
愛教大線	祐福寺	知立駅	0	0	0	9	14	12	
		日進駅	0	0	0	8	11	10	
じゅんかい君	西コース	左回り	いこまい館	0	0	0	12	11	12
		右回り	いこまい館	0	0	0	10	4	7
北コース	左回り	いこまい館	19	50	35	20	11	16	
	右回り	いこまい館	16	30	23	23	17	20	
南北コース	左回り	いこまい館	0	0	0	6	1	4	
	右回り	いこまい館	0	0	0	4	4	4	
								総計	1015

*令和2年度乗降調査時の数値

*名鉄バス星ヶ丘豊田線は抽出便の調査のため、(1日総運行便数/調査便数)×利用者数で、平日・休日それぞれの推計値を算出し、平日・休日各1日の平均値を「推計値」としています

*目標値には(仮称)ららぽーと徳重線及び東郷・藤田医大バスの利用者を含んでいます

指標 2-1

じゅんかい君の満足度(不満割合)

目標値(R8)	現況値(R2)
現状未滿	19.3%

※利用者アンケートより、乗車したバスの総合的な満足度のうち、「不満」と「やや不満」の回答割合の合計値

指標 3-1

庁内他部署や複数の実施主体が連携・協働した取組の件数

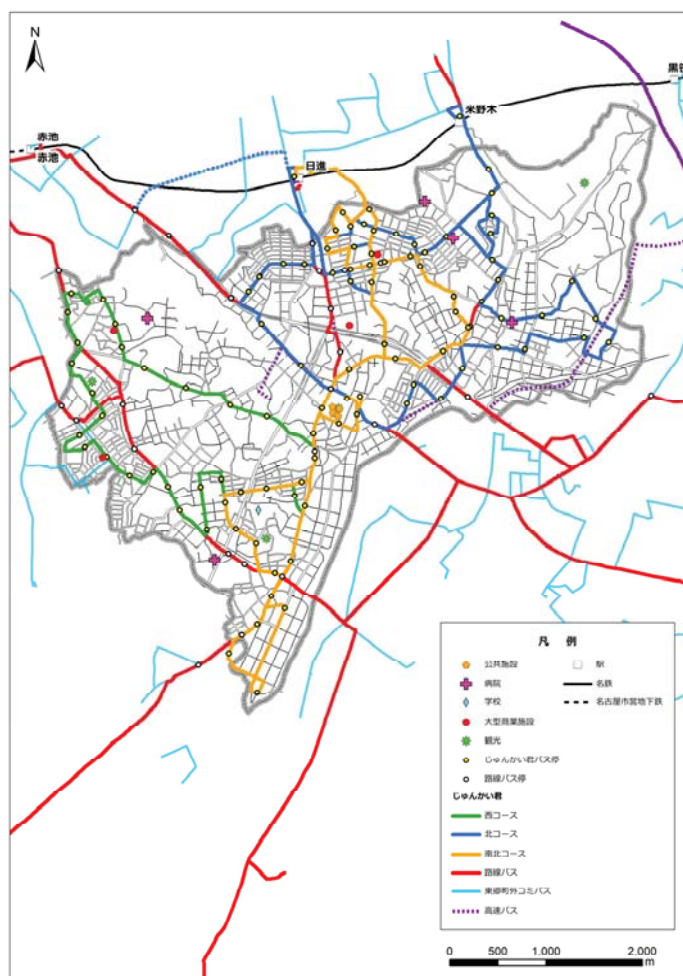
目標値(R8)	現況値(R1)
12 件/年 (1 件/月)	●件/年

VI 計画の区域と期間

1 計画の区域

本計画の計画区域は、東郷町全域とします。なお、周辺市との連携にあたっては、個別に協議・調整を図ります。

図 計画区域の公共交通網



2 計画の期間

本計画は、東郷町が目指す将来都市構造を支える公共交通計画（マスタープラン）となるため、関連計画の東郷町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の計画期間との整合を図ります。

都市計画マスタープランは概ね 20 年後の東郷町の姿を展望しつつ、策定時（令和 2 年度末）より概ね 10 年後の令和 12 年（2030 年）を目標年次としています。また、立地適正化計画は概ね 20 年後の令和 24 年（2042 年）を目標年度としています。

これらまちづくり計画は、人口等の都市機能指標が更新される 5 年ごとに評価・見直しを行い、本計画はこれらまちづくり計画の評価・見直しを反映させることを前提とします。その結果、本計画は令和 3 年度（2021 年度）から令和 8 年度（2026 年）の 6 ヶ年を計画期間とします。